

Yawaragi

学習院女子大学だより

やわらぎ

第19号

2016



Gakushuin Women's College

Yawaragi

学習院女子大学だより

やわらぎ

第19号

2016

Contents

- P. 3 学長からのご挨拶
- P. 5 皇太子殿下特別講義「歴史の山旅を楽しむ」
- P. 6 特集 世界の中の日本 世界の中の日本の建築
- P. 8 2016年度 海外語学研修
- P. 9 協定校との交流
- P. 10 国際研究集会 日本研究の現在
- P. 12 国際学研究所だより
- P. 13 展覧会「ゴールするランナーたち オリンピックと芸術」
- P. 14 伝統文化講座 茶道を通じた国際交流
- P. 16 本学で開催された特別授業
- P. 18 授業紹介
- P. 19 本学で開催された学会・研究会／客員研究員受入一覧
- P. 20 専任教員著書の紹介
- P. 21 図書館からのお知らせ
- P. 22 留学生報告 海外留学報告
- P. 25 留学生行事報告
- P. 26 留学情報
- P. 27 輔仁会団体紹介
- P. 28 雅祭を終えて
- P. 29 和祭を振り返って
- P. 30 学習院女子大学の就職力
- P. 31 内定者からの声
- P. 32 キャリア支援部からのお知らせ
- P. 33 学習院父母会の近況報告
- P. 34 草上会からのお知らせ
- P. 36 学習院女子大学データ
- P. 37 平成29年度 学年暦
- P. 38 Topics



学長からのご挨拶

学習院女子大学長 石澤 靖治



3月末で2期6年務めた学長の職を離れます。そこで最後になる今回は、この6年間でどのようなことを行ってきたかを振り返ってみたいと思います。これらは全て、本学教員と職員の協力によって実現できたことです。

学年ごとの取得単位数の上限の設定とGPA制度、科目ナンバリングの導入

一つ一つの科目をしっかりと学んで

もらうために上限を設定しました。また他校より少し遅れをとりましたが、成績評価にGPAを導入して世界の大学の基準に合うようにしました。それに伴って及第最低点も50点から60点に変更。なお学習院大学は本学に1年遅れて始めました。科目ナンバリングも同じ流れの中で導入しました。

海外同時授業とダブルディグリー制度

カナダの協定校であるレスブリッジ大学には英語コミュニケーション学科の学生が半年の留学を行っています。そうした良好な関係をベースに両校の学生が同時に英語で授業を受ける海外同時授業、また5年間で両方の大学の学位を取得できるダブルディグリー制度を導入しました。前者はたぶん日本で唯一。後者も国内でそれほど多い事例ではありません。

グローバル化で補助金獲得

文部科学省による私立大学等改革総合支援事業に応募して、本学のグローバル化が評価され3年連続で補助金を獲得しました。学習院大学は本学に1年遅れて獲得しています。

海外協定校の増加

アメリカの優良大学であるUCデイヴィスが協定校に加わったことに加えて韓国でも梨花女子大学が。これまで豊富だった欧州ではさらにフランスが、他に中国、台湾、フィリピン、ラオスなどが加わりました。それは現地の言葉に加えて、英語による授業を行うところも少なくありません。その結果、米・欧・アジア・オセアニアに15か国21大学という、女子大トップ水準のグローバルネットワークが出来上がりました。

協定留学生へのサポートの強化

遠州流の全面的な協力のもとに、協定留学生のための茶道の講座を設けました。また彼女たちが帰国する際に、日本と本学のことを末永く覚えていてもらうために、本学で学んだことを記す証書(学位記ではない)を発行しました。

国際学研究所(GIIS)の設立

本学教員が本格的な研究を行うと同時に、外部からの研究資金の受け皿にもなる研究所をつくりました。これまで東アジアとそれに関する研究を進めてきましたが、今後は範囲をアジア太平洋に広

げていきます。英文ジャーナルも毎年発行し、叢書の出版も開始。すでに外部資金も獲得しました。

JMOOCの実施

世界でインターネットによる授業が広まりつつありますが、それに対応するための日本における試験的なプロジェクトがJMOOCです。本学は2年前に日本の女子大として初めて参加して、日本のみならず世界から多くの受講者を集めました。

東日本大震災での特待生制度

岩手・宮城・福島県の3県で被災した受験生に、一定の条件を満たした場合は、学費免除・奨学金付きの特待生制度を時限的に導入しました。なお、それとは別に昨年度の入試から、一般入試A方式合格者の上位者に初年度の学費を免除する制度もスタートしています。

女子高等科・中等科との連携

女子高等科の父母や生徒に本学の身が十分に伝わっていなかったことを踏まえ、本学の説明会を定期的に開催することにしました。同時に災害対策でも避難訓練を一緒に行うなど、同じ戸山キャンパス

学 長 か ら の ご 挨拶



を共有する学校として連携を強めています。

災害対策の充実

3日分を目標に水と食料の備蓄を進めてきましたが、それに近い形になりました。また女子高等科・中等科、隣接する戸山高校、西早稲田中学の学校長と定期的な情報交換を行うようにしました。

広報メディアの刷新・拡充

大学案内、ホームページを刷新しました。また本学の状況を映像で示す広報VTRも新規に作成して広報メディアを万全なものにしました。西早稲田駅構内の広告

もメッセージのあるものに刷新。また初めて電車広告でのキャンペーンを実施しました。さらに媒体だけでなく、職員が年間200件を超える数の高校訪問を行って本学の内容を徹底的に説明して回っています。

移動式掲示板の設置

正門は重要文化財のために掲示板を設置することができません。そこで移動式の掲示板を複数設置することを考えました。これによって本学内における「文化交流ギャラリー」の展示やイベント活動の状況を、外部の人に知らせることができるようになりました。

駅表示の変更依頼

東京メトロと交渉して、副都心線西早稲田駅構内における本学の表示をわかりやすい位置に変更してもらいました。また東西線早稲田駅構内に表示のなかった本学の情報について、名称掲示と地図への掲載を実現しました。

オープンキャンパスにおける

装飾の充実

椅子に本学のロゴのついたカバーを付いたり、入り口にWelcomeのアーチ、通路にのほりというように、

受験生に歓迎の気持ちを示す装飾を充実させました。キャンパスの見せ方について他大学に遅れをとっていましたが、今では全く引けをとらないものになりました。

近隣の学外施設との連携

本学内の施設の不足を補う形で、近隣のフレッシュネスバーガー西早稲田店とマクドナルド明治通り新宿ステパ店と提携しました。それぞれに本学学生向けの特別割引金が設定されています。またフレッシュネスバーガーでは本学オリジナルドリンクが発売されています。またアスレチック・ジムがないことに対しては、ほぼ隣接する新宿元気館において半額(400円を200円)でトレーニングができるようにしました。

海外遠征の実現

全国でも強豪校である本学チャリダー部が、フィリピンの協定校でASEAN(東南アジア諸国連合)トップの実力を誇るパーペチュアル・ヘルプ大学に遠征し、互いの技を競い合いました。桜友会の資金援助を受けましたが、こうした海外遠征は学習院全体でもほとんど例をみない試みでした。

Wi-Fiの導入

これまで整備が遅れていた学内LAN無線ネットワークでしたが、eduroamを導入して、wired campus, に近づきました。

学食の備品の交換

より快適に食事をしてもらうために、箸を使いやすいものに、トレイを明るい色のものに新調しました。

女子大学連盟総会の開催

全国の女子大学で構成する女子大学連盟の総会が毎年開催されますが、その総会を本学で初めて開催しました。

なお平成29年度には、ティールームの照明を変えて雰囲気明るくする予定です。地方からの一人暮らしの新入生には、担当の上級生が簡単な相談に乗る制度もスタートします。

繰り返しますが、これらのことは教員・職員の尽力によって実現したことです。それに対して心からお礼を申し上げます。そしてこうした活動が今後も続き、本学がいつそう発展することを祈っています。

皇太子殿下特別講義

「歴史の山旅を楽しむ」

皇太子殿下の特別講義「歴史の山旅を楽しむ」が、1月19日に本学の222教室で行われました。各学科の学生、大学院生、教職員あわせて約200名が本年度で13回目となるご講義を受講しました。

今回のご講義では、殿下のご趣味である登山の話題を交えながら、古くから人々に親しまれていた山道を文学や歴史をひもときながら歩く楽しみについてお話しいただきました。殿下は、小さい頃から「道」に関心を寄せられていきます。初等科に在籍の頃に、お住まいの赤坂御用地の中で鎌倉時代の古道と出会われ、いままで全く知らなかった世界に誘われる「道」の存在にご関心を持たれたエピソードをご紹介されることにより、本講義は始まりました。

次に、「歴史の山に惹かれて」というテーマで、学習院大学へご入学後、史学科で本格的に歴史のご研究を始められ、登山の楽しみと研究

が重なったことをお話しにられました。信仰の道を辿る登山の魅力について、日本三名山のひとつでもある白山、日本中世史のゼミ合宿で行かれた箱根湯坂路に加え、仏像などがたくさん見られた両神山を例に、歴史を詳しくお調べになられながら歩まれたご経験をご説明くださいました。

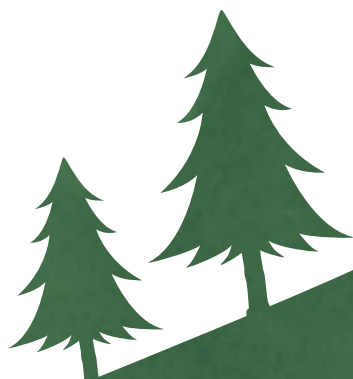
そして、「信仰の山に登る」というテーマで、本格的な修行の山についてご講義されました。奈良県の吉野から熊野に至る山の長い連なりである大峰山の歴史について解説された後、平成2年6月に3日間の行程で登られた体験をお話しにられました。大峰山は、受講者に配布された『枕草子』にも記された御岳精進の伝統があります。大峰山登山を通してご体験された、修行をする人々やその行の様子を臨場感溢れるお写真を交えながら、丁寧に解説くださいました。

最後に、富士山についてお話しに

なりました。有史以来の富士山の噴火に関し、鎌倉時代の『十六夜日記』を紹介された後、平安時代の『本朝世紀』や『富士山記』を交えながら、殿下の2度にわたる富士登山について語られました。殿下は、時代を超えて現在に引き継がれている人々の思いを想像しながら信仰の山に登ることの楽しさを強調され、講義を締めくくられました。

今回のご講義も、入念にご準備されたスライドや配布資料と明快なご説明によって、「歴史の山道探訪」に関する学生たちの理解は十分に深まったに違いありません。ユーモアを交えてのご講義は、私たち一人ひとりととって山の恵みに感謝しながら山との接し方を改めて考える貴重な機会となりました。

(国際コミュニケーション学科教授
金城 亜紀)





特集

世界中の日本

～ 世界中の日本の建築



国際コミュニケーション学科
准教授 ウーゴ・ミズコ

Architecture 01

片山東熊、表慶館(1908、明治41年)、日本ではじめての本格的な西洋建築様式的美術館です。

「日本の建築」と聞いて、何を思い浮かべますか。日本に建てられた建築、あるいは日本人によって設計された建築でしょうか。それでは、外国人によって日本に建てられた建築、日本人が外国の建築を模倣して建てた建築はどうでしょうか。このように、ひとくちに日本の建築と言っても、それが意味するものは実に多様であるように思われます。

以上の問題を、日本の大学で教えられている「建築史」の内容を例に考えてみましょう。建築史は、一般的に日本建築史、西洋建築史、近代建築史の三つに分けられます。縄文時代から江戸時代の建築が日本建築史で扱われ、西洋(主にヨーロッパと北米)の先史から19世紀までの建築が西洋建築史、そして明治以降の建築が近代建築史の中で扱われます。近年になって、東洋建築史を加えるところも出てきましたが、建築の歴史的な変遷を学ぶにあたって、基本的に日本と西洋の二軸が立てられているのです。

以上のような区分は、日本という国の歴史、日本でどのような建築が求められてきたかという歴史そのものを物語っています。

ご存知のように、日本は西洋諸国の外庄によって国を開きました。開国後の目標は、当然、西洋諸国に見劣りしない国、都市、建築づくりになりました。このような中、1873(明治6)年に工学寮が開校され、工業教育が本格

化します。工学寮は、後に工部大学校(現在の東京大学工学部)となり、造家学(西洋建築学)が導入されました。明治政府はイギリス人の若い建築家ジョサイア・コンドル(Josiah Conder、1852～1920)を招き、1877(明治10)年から西洋建築学を担当させました。しかしながら、西洋建築ばかりを学んでは日本は伝統が失われてしまいます。そこで、日本建築の講義も、1884(明治17)年よりコンドルに学んだ最初の卒業生の一人、e.g. 辰野金吾(1854～1919)によって、そして正式には1889(明治22)年より宮内省匠寮技手の木子清敬(1845～1907)によって開始されました。

このように、日本が近代化、西洋化をめざした明治以降に、日本建築と西洋建築が区別して教えられるとともに、実際に多くの西洋建築や近代和風建築が建設されるようになりました。例えばコンドルは、上野博物館(1881年、東京国立博物館の前身)、明治政府の迎賓施設として鹿鳴館(1883年)、三菱岩崎家のために大邸宅を設計しました。しかし明治時代後半からは、コンドルに学んだ日本人の建築家によって、本格的な西洋建築が建てられることとなります。辰野金吾が設計した東京駅(1914年)、片山東熊(1854～1917)による赤坂離宮(1909年)、表慶館(1908

Architecture 02

ル・コルビュジエ、
国立西洋美術館(1959年)。



Architecture 03

坂倉準三、神奈川県立近代美術館
鎌倉館(鎌倉市、1955年)。2016年
1月31日をもって一般公開を終了し
ました。



年、東京国立博物館内「図1」は現在でも利用され、当時の雰囲気を感じさせてくれる優れた例です。

日本人建築家は西洋建築を学びながらも、日本の伝統建築についても研究を重ねました。東洋建築との関連性を意識する一方で、日本独自の建築的特徴についてもさまざまな議論がなされました。こうした努力は、新しい建築を模索する世界的な潮流とも関係し、1930年代以降はコンクリートやガラスといった国際的な材料を用いながらも、どことなく日本の伝統的な造形美を思わせるような建築を生み出していきます。丹下健三(1913〜2005)は、その代表的建築家と言えますが、彼以降、日本人建築家の業績は常に国際的な名声を集めているように思います。建築界のノーベル賞とされるプリツカー賞(アメリカ、1979年〜)を見ても、1987年の丹下健三以降7人も受賞者の輩出は世界的にも突出しています。

2016年、上野公園内の国立西洋美術館(本館「図2」)が「ル・コルビュジエの建築作品―近代建築運動への顕著な貢献―」のひとつとしてユネスコ世界遺産に登録されました。

1959年竣工の国立西洋美術館は、世界に点在するル・コルビュジエ(Le Corbusier、1887〜1965)の代表作のひとつで、日本に所在する唯一の建築物です。フランスを拠点に活躍したル・コルビュジエでしたが、彼

の下で学んだ前川國男(1905〜1986)、坂倉準三(1901〜1969)、吉阪隆正(1917〜1980)が設計補助ならびに現場監理を行いました。三人は、先に述べた丹下同様、日本の近代建築に多大な貢献をした偉大な建築家です。例えば、坂倉準三は戦後日本初の近代美術館として開館した神奈川県立近代美術館鎌倉館(鎌倉市、1951年)「図3」を設計しました。これはDoCoMoMo(ドコモモ)ダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織の保護リストにも記載されている建物ですが、世界中から建築ファンを集める素晴らしい作品です。前川國男が手掛けた作品には、私たちのキャンパス内の建物もあります。学習院女子大学図書館(学習院戸山図書館、1982年)です。前川、ル・コルビュジエの関係を思えば、私たちの大学は世界遺産にも登録された西洋美術館とつながっていることとなります。

グローバル化の加速する現代社会において、「日本の建築」がいったい何を意味するのか、という問いはなかなか奥が深く示唆的です。なぜなら、その問いは日本の建築がどこに根ざしている、時代の進展に合わせてどのように変化し、どのように世界とつながってきたのかを理解することだからです。そのことが、あなた自身、あなたの身の回り、あなたと世界のつながりを考えるきっかけとなれば幸いです。

2016年の夏のヨーロッパにおける 国際協力・国際交流と異文化体験

✖ 中欧国際協力研修

2007年に始まった本研修は10年目を迎え、8月16日～9月3日（18泊19日）に実施されました。研修先は発足当時には一方国のみであったのが、徐々に増え、今は五カ国で行われています。研修先の国名と、それぞれの国を本研修に参加することによって訪れることができた学女生の通算人数はクロアチアとオーストリアー20名、マケドニア77名、セルビア66名、モルドヴァ67名となっています。研修参加者は日本との比較のみならず、ヨーロッパ内部の国々を比較し、相対化して理解することができるようになっています。日本の他の大学の海外研修ではほとんど実施されていないような国々ばかりですので、学習院女子大学ならではの独自の試みということが言えます。

国際コミュニケーション学科
教授 中島崇文

最初に訪れるクロアチアは1991年にユーゴスラヴィアから独立宣言した直後から4年間、内戦が続いた国です。今年度の中欧研修参加者のほとんどは1995年生まれでしたが、ちょうどその年に日本政府が支援して建設されたマラ・ゴリツァ村の難民センターに難民や国内避難民が入居を始めています。今回の訪問ではもっぱらコソヴォからの難民のみ見かけましたが、未だに難民がこのように居住していることを目にして学生たちは考えさせられたようです。

続いて訪問したマケドニアもユーゴスラヴィアからの独立25周年を迎えていましたが、こちらでも今年度は難民と直接交流する機会がありました。首都スコピエ郊外の難民申請者の収容施設を初めて訪問しましたが、コソヴォのみならず中近東からの難民が居住しており、子ども

たちは学女生に膝の上に乗せてもらい、折り紙を教えられると隣く間に笑顔で一杯になりました。

6年目となった、マケドニア南西部の世界遺産のオフリド湖畔での地元の小中学生との共同清掃事業も予定通り実施し、学女生の国際貢献の一つとして定着しています。

今回も二泊のみながら一般家庭にホームステイをする機会がありました。マケドニアの人々の心からのおもてなしにすっかり感激し、学女生はお別れの際には目を真っ赤にすることになりました。

三カ国目のセルビアでは例年通り首都の名門ベオグラード大学の日本語学科の学生さんと先生方と心温まる交流をし、JICAバルカン事務所や日本大使館を表敬訪問しました。近郊のミオニツァ市に初めて足を延ばし、草の根・人間の安全保障無償資金協力の被供与先



である診療所を訪問し、日本の支援のきめ細かさを実感しました。

四カ国目のモルドヴァも独立して四半世紀を迎えていましたが、それ以前はソ連の一部だった国です。欧州最貧国と言われており、親が国外への出稼ぎで取り残された子どもたちを支援しているデイケアセンターを今年も訪問し、浴衣を着せてあげたり、華道をしたり、モルドヴァの民族舞踊と一緒に踊ったりして喜んでもらうことができました。

最後にウイーンでは国連やIAEAの本部、シェーンブルン宮殿を見学し、オペラ座での演奏会を堪能して研修を終えました。

✖ ジュネーブ研修

2013年に始まった本研修は4年目となり、9月6～14日（8泊

9日）に実施されました。今年度は参加者人数が初めて二桁に達し、この4年間に本研修に参加した学女生は通算29名となりました。

過去に訪問したことのある国連欧州本部、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）、ILO（国際労働機関）、IOM（国際移住機関）、WHO（世界保健機関）、UNICEF（国連児童基金）、国際赤十字・赤新月博物館、ジュネーブ大学に加えて、今回初めてグローバル・ファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）、UNCTAD（国連貿易開発会議）、WIPO（世界的知的所有権機関）を訪問しました。週末にはグリユイエールのチーズ工場やカイエのチョコレート工場も見学し、スイスの文化も堪能しました。





新しく2大学と協定を
締結しました

【実践大学 (Shih Chien University)】

同大学は1958年に創立され、現在は台北の中心地にあるメインキャンパスの他、台湾第2の都市である高雄市内にもキャンパスを持つ、私立の総合大学です。英語で開講される授業も多数あり、本学から派遣される学生は主に台北キャンパスで英語で開講される授業を履修しながら、留学生向けの中国語コースで中国語も学びます。同大学に



実践大学

は日本語学科があることから、活発な学生交換による交流が期待されます。

創立…1958年
所在地…台湾 台北市、高雄市
学生数…約16000名
学部…5学部



カリフォルニア大学デービス校

【カリフォルニア大学デービス校 (University of California, Davis)】

同大学はカリフォルニア大学システムに属する10校のうちの一つで、カリフォルニア州デービス市にある州立大学です。各種大学ランキングにおいて世界的にも非常に高く評価されている大学で、45ヶ国140の大学と協定を締結し、約35000名の学生のうち約6200名を留学生が占めるなど、国際交流も盛んに行われています。

創立…1905年
所在地…アメリカ合衆国

カリフォルニア州 デービス市
学生数…約35000名
学部…5学部

ダブル・ディグリー・プログラムを
制定しました

5月13日、カナダのレスブリッジ大学との間にダブル・ディグリー・プログラムを制定しました。

ダブル・ディグリー・プログラムは、本学に在籍しながら海外の大学に留学し、それぞれの大学で修得した単位の一部を両大学が相互に単位認定することで、両大学の学位を取得できるプログラムです。本プログラムを導入することで、学生が積極的に海外留学に挑戦する機会を増やし、グローバルに活躍できる人材の育成を目指します。

海外同時授業を引き続き
開講しています

カナダのレスブリッジ大学との間で平成26年度に開始した通信回線ネットワークによる海外同時授業も、3年目を迎えました。本年度は、本学の金城亜紀教授、レスブリッジ大学のIain MacLachlan教授が担当し、日本とアジアの経営史の比較や、カナダや

環太平洋地域における経済・政治を地理的観点から考察しました。授業の進め方は一方的でなく、相手校の教員にリアルタイムで質問したり、学生同士で討論することも可能で、対面式と遜色のない授業が行われています。



ダブル・ディグリー・プログラム協定締結式



海外同時授業の様子



国際研究集会

日本研究の現在いま

平成28年10月1日(土)、2日(日)に、本学で「日本研究の現在いま」と題する国際研究集会が開催されました。この研究集会は、平成27年度にスタートした学校法人学習院戦略枠予算事業「日本文化研究と国際文化交流」の第2年度の事業で、今年度からは学校長裁量枠予算事業として実施されたものです。

2日間の研究集会は、日本史研究と日本文学研究というふたつの分野から構成され、第Ⅰ部「日本史研究」のコンテキスト、第Ⅱ部「世界文学としての日本文学」と銘打って、日を分けて実施されました。以下、研究集会の内容については、各部の企画担当者から報告しますが、より詳細な内容をお知りになりたい方は、当日の趣旨・要旨集、あるいは来年度刊行を予定している書籍をご覧いただければ幸いです。

第Ⅰ部

”日本史研究”のコンテキスト

日本文化学科教授 岩淵令治

初日である10月1日には、「日本史研究」のコンテキスト」というテーマで私がコーディネーターをつとめました。

周知のように、現在、「日本研究」は世界各国ですすめられています。ここ数年来、「国際化」の政策をも背景に、国際シンポジウムが増え、留学生も増加したことで、分野ごとの交流も活発化しつつあるように思います。日本研究は、日本人のものだけではないという自覚も芽生えてきているのではないのでしょうか。

こうした世界各国の日本研究の動向は、20世紀末以降、国際日本文化研究

センターのシンポジウムや出版物を中心に、日本研究を旨とした大学付属の研究機関などでも紹介されてきました。しかし、その対象は研究分野を絞らない茫漠とした「日本学」「日本研究」で、内容も教育や学会の現状など、各国における制度的な動向と研究の傾向が中心だったように思います。

もちろん、こうした現状報告も意味のあるものではありません。しかし、私は、日本研究の現在を理解するために、各国の個別の専門領域における研究のコンテキストが重要なのではないかと考えています。外国における個別研究の成果だけを見るのではなく、各国の研究者の発想・研究方法をその形成過程から学ぶことが重要なのです。

こうした立場から、今回は私の専門である日本史研究を対象を限定しました。そして、第一線で活躍されてい

る世代の異なる3人の日本近世史の研究者—ロナルド・トビ氏(アメリカイリノイ大学名誉教授) ギョーム・カレ氏(フランス国立社会科学高等研究院) 朴花珍氏(韓国 釜慶大学)—をお招きし、日本史研究の形成過程をお話し頂き、かつ現在の御研究に到る道筋をお話し頂くことにしました。また、フランスのパリ第七大学院博士課程に留学中の世川祐多氏、日朝関係史・日中関係史が専門の米谷均氏(本学非常勤講師)にコメントを頂きました。

当日の報告や議論では、近代以降に非欧米で独自の歴史研究を展開させた日本が特異な存在であること、アメリカ発信の「近代化」論が日本研究の形成に大きな影響を与えたこと、各国の日本研究は歴史研究よりもむしろ地域研究のひとつとしての立場に立たされていることが多いこと、等が指摘されました。こうした議論は、日本人による日本史研究を見つめ直す機会のひとつになりえたと思っています。

第Ⅱ部

世界文学としての日本文学

日本文化学科教授 伊藤守幸

第Ⅱ部の研究集会は、当初、初年度の実施を予定していましたが、諸般の



事情で開催時期が遅れ、集会の規模も当初案より縮小されることになりました。しかし、大会規模の縮減に伴い発表人数を絞り込んだ結果、講演からシンポジウムまで、すべての発表が外国人研究者によるものとなり、外部の視座から日本文学を再評価するという意味では、論点の明確な研究集会を組織することができました。

研究集会は、郭南燕氏（国際日本文化研究センター）による基調講演で幕を開けました。講演題目は、「世界に開かれた日本文学・宣教師と名文家」です。自身も日本文学学習者としての経験を有する郭氏は、日本語で創作活動を行う外国人作家の存在に、以前から関心を寄せていました。この講演では、明治時代から現在まで膨大な日本語著書を刊行してきた来日宣教師の活動に着目し、とりわけイエズス会宣教師ヘルマン・ホイヴェルス神父の業績を



明らかにしました。更に「名文家」として知られる志賀直哉の作品にも新たな角度から光を当てて、ふたりの作品に内包される多言語・多文化的要素を読み解き、人生と自然に対する彼らの深い洞察を鑑賞しました。

当日この講演を聴いた多くの日本人にとつて、ヘルマン・ホイヴェルス神父の名前は耳慣れぬものだったと思われ、ますし、志賀直哉にしても、彼を単に「名文家」として理解している人々には、外国人による異化された日本語に特別な関心を寄せ、日本語そのものに対しても独特の距離感を保持する志賀の姿勢は、新鮮な驚きをもって受け止められたようです。講演後に、予定の時間を超えて活発な質疑応答が続いたことが、この講演が如何に刺激的なものであったかを雄弁に物語っています。

続いて午後部では、英訳『更級日記』（『The Sarashina Diary』 Columbia University Press, 2014, ソーニャ・アンツェン氏と伊藤守幸の共訳）に関するシンポジウムが実施されました。

ここではまず、ソーニャ・アンツェン氏（トロント大学名誉教授）「新訳に対する批評的意見」刊行後2年間の書評を中心に、リチャード・パウリング氏（ケンブリッジ大学名誉教授）「WHAT'S IN A TITLE? 題とは何か」、クリスティーナ・ラフィン氏（ブリティッシュ・コロンビア大学）「世界文学と日本」・更級日記の位置と英訳」という発表が行われ、引き続き福家俊幸氏（早稲田大学）の司会により、総合討論が行われました。

この総合討論も、午前の基調講演と同様、予定時間を大幅に超過して白熱した議論が続くことになりました。アンツェン氏は、『更級日記』の新たな英訳に取り組んだ理由や、新訳の提示した新しい解釈が、読者にどのように受け止められたかという点を、多くの書評を検証することで明らかにしました。パウリング氏からは、作品の題名や著者名が日本文学の歴史においてどのように位置づけられてきたのかという根源的な問題提起がなされ、ラフィン氏は、世界文学という概念の意味やそこに日本文学をどのように位置づけるかといった問題を論じたのですが、総合討論においては、発表者のみならず会場からも多くの質問や意見が出され、外国人研究者、日本人研究者を問わず、忌憚らない意見交換がな

されました。

『The Sarashina Diary』の最大の特長は、日本語を母語とする日本文学研究者と英語を母語とする日本文学研究者が、膝詰めで議論を重ねながら完成させたという点に認められますので、この本をめぐって、英語圏と日本語圏の研究者が熱心に議論を重ねる光景は、共訳者のひとりとして大変心強く感じました。

最後に、企画担当者両名から、本事業の運営を支えてくださった皆様にも、この場を借りて感謝を申し上げます。とりわけ、国際学研究所の瀬戸百代さんをはじめとする教職員の方々、更には岩淵ゼミ・伊藤ゼミ所属の大学院生・学部生の皆さんのご協力に深謝いたします。



国際学研究所(GIIS)だより 2016年度

徳田 和夫 国際学研究所長、日本文学学科教授

国際学研究所は、平成25年(2013年)4月に、学部・大学院の教育理念を学術の面からいっそう究めるべく開設され、4年が経とうとしています。研究分野は次のとおりです。

- (1) 国際文化交流 Intercultural Exchange
- (2) 国際問題 International Affairs
- (3) 比較文化 Comparative Cultures
- (4) アジア・太平洋研究 Studies of the Asia-Pacific Region
- (5) 外国における日本研究 Supporting of Japanese Studies Outside Japan

2016年度のトピックのひとつは、研究所叢書の刊行です。以前からの課題が、機熟して実現しました。金野純編著『調和的秩序形成の課題』(ワンアジア財団研究助成)講座東アジア共同体論、2016年12月、御茶の水書房)は、東アジア圏の歴史、市民社会、環境を多方面から考究するもので、内外の9名が集い、専任教員では金野副所長、時安邦治・羅京洙・莊林幹太郎(執筆順)が健筆を奮っています(本誌「専任教員著書の紹介」掲載)。



ふたつめは、初の主催の特別展「1885年の文化発信」です。およそ130年前に、日本滞在の外国人に向けて、江戸時代の錦絵(木版多色刷り)の技法を継いだ絵本が出版されました。和紙に細かな皺を付けたので、「ちりめん本」と呼ばれています。日本の昔話、伝説、神話が英語、フランス語、ドイツ語などに翻訳され、ヨーロッパ諸国に運ばれていたのです。まさに本学がめざす日本文化の発信の先駆けです。会場は、図書館所蔵の20数点に個人蔵本を加えて彩りにあふれました。展示期間中に和祭があり、父母の皆さまも大勢ご観覧下さいました。詳しくは、研究所紀要(ジャーナル)第4号の「展示解説」(英文)をご覧ください。

また引き続き、国際シンポジウムを催しています。「日韓文化交流…『韓流』と『日流』の可能性」(9/23、(学)習院国際交流基金)東アジア大学間学術交流第9回ワークショップ、韓国国際交流財団東京事務所「2016韓日交流シンポジウム」、羅京洙研究員担当)と、「中国文化大革命研究の新資料・新方法・新知見——50周年からの再スタート」(11/6、(同)共催)・静岡大学人文社会科学部アジア研究センター、金野純副所長担当)は、ともに今日的なテーマであり、内外から多数の研究者が参加して活況を呈し、成果を得ました。メディアも注目して、前者は「統一日報」9月28日号に、後者はNHK・BS1の特集番組に取り上げられました。

客員研究員による研究所セミナーも開催できました(1/16)。四方八重戸先生のご講義「新たな開発援助潮流とパートナーシップ」(ミレニアム開発目標(MDGs)から持続可能な開発目標(SDGs)へ)は、近年の動向を分析されていて学部生・大学院生の関心もアップしました。

さらに昨年度と同様に、学部主催の国際研究集会「日本文化研究と国際文化交流」での「日本研究の現在」(学校長裁量枠予算事業)に運営協力しました。その第一部「日本史研究“のコンテクスト”(岩淵令治研究員担当)、第二部「世界文学としての日本文学」(伊藤守幸研究員担当)の内容は、本誌の別掲記事をご覧ください。なお続いて、「20世紀後半の日本美術を語る」(3/4、清水敏男研究員担当)がおこなわれました。

申し添えますと、かかる諸事務は瀬戸百代さんが円滑に進めて下さいました。皆様には、今後ともいっそうのご支援を賜りますと幸いです。



「ゴールするランナーたち オリンピックと芸術」について

日本文化学科 教授 清水 敏男



Photo: Hirofumi Tani

2016年10月18日(火曜日)から11月23日(水曜日・祝日)まで学習院女子大学文化交流ギャラリーで展覧会「ゴールするランナーたち オリンピックと芸術」が開催されました。この展覧会は1936年のオリンピック・ベルリン大会の芸術競技絵画部門で銀メダルを獲得した絵画作品「ゴールするランナーたち」を修復し展示するというものでした。

この作品はオーストリアの画家ルドルフ・ヘルマン・アイゼンメンガー(1902年ハンガリー生まれ、1994年ウィーンで没)が描いたものでベルリン大会終了後日本にもたらされ、秩父宮記念スポーツ博物館の収蔵作品となっていました。オリンピックと芸術の関係を明らかにする貴重な資料であるにもかかわらず長年展示公開され



Photo: Hirofumi Tani

ることがなかったことから、学習院女子大学が取り組んでいるオリンピック教育の一環として展覧会を開催するに至ったものであります。

また本展覧会は平成28年度から他大学・機関の研究者とともに取り組み始めたスポーツ・アーカイブズの構築に関する共同研究に関わる展示でもありました。すなわちスポーツに関する資料を発掘し整備し保存する、さらに展示等を通じて活用するというアーカイブズに関するモデルとして構想されたのです。

作品の保存については絵画保存研究所の小谷野匡子氏、大川美香氏(本学博物館資料保存論担当非常勤講師)が担当しました。80年間に堆積した埃を払い、洗浄することから始まり、画面の亀裂の修復、キャンバスの補強、欠落

した絵具の補彩を行いました。額を新たにし作品の鑑賞条件、保存状態を改善しました。絵具の化学的な組成分析に関しては東京学芸大学が携わりました。

ルドルフ・ヘルマン・アイゼンメンガーは第二次世界大戦終了後もウィーン国立歌劇場の装飾を行うなどオーストリアの重要な画家として活躍しておりウィーンに遺族が住んでいることが確認され、ウィーンで調査を行いました。遺族から画家に関する資料、ベルリン大会において銀メダルを獲得した際の関連資料の提供を受けました。これらの資料も展示され、展覧会終了後は秩父宮記念スポーツ博物館に寄贈されることとなりました。

展示最終日には教育普及事業として元マラソン選手の有森裕子氏を迎え、本学の荒井啓子教授を聞き手にトークショー『走る』を開催しました。

展覧会のロゴ並びにポスターデザインは日本グラフィックデザイナー協会会長の浅葉克己氏が担当しました。展覧会の企画、運営は本学学芸員課程で学ぶ学生が担当しました。資料の準備、展示作業を始めとし、展覧会内覧会の準備と運営などを通じ展覧会業務を実地で学びました。

秩父宮記念スポーツ博物館、アイゼンメンガー遺族、報告書に協賛いただいた

三井不動産株式会社、協力いただいた関係各大学・機関に感謝いたします。平成29年度にもスポーツ・アーカイブズに関する展示を行う予定であり、この領域における学内外の関心が高まることを期待しています。



Design: Katsumi Asaba



Photo: Hirofumi Tani

茶道を通じた国際交流

国際コミュニケーション学科 教授 畠山圭一

「海外派遣事業」

①ウィリアム・アンド・メリー大学
日本文化講座及び茶道講座・
茶会

平成28年10月27日13時〜16時15分
同大学教育学部棟
(バージニア州ウィリアムズバーグ)

―特別講義 講師…尼ヶ崎彬 本学教授
茶道講座 指導…中澤宗寿・本学講師
(表千家茶道講師)

補助…加藤 希美(日本文化学科4年)
浅野 莉奈
(国際コミュニケーション学科2年)

引率・渉外…畠山圭一 本学副学長
伊藤 由紀子 本学教授
ウィン・グン 本学教授
大出 隆 本学講師
(現地渉外支援)

米国にあるウィリアム・アンド・メリー
大学 (College of William & Mary)

本学は平成10年の開学当初から、正規授業として伝統文化(茶道、華道、書道、香道、有職故実)の歴史・思想・作法に関する講義・演習を多数開講し、さらに国内外から多くの研究者・専門家・大学院生を受け入れるなど、日本の伝統文化に関する最も充実した教育内容を誇る高等教育機関です。そうした本学の特色とこれまでの研究・教育の実績を踏まえ、本年度(平成28年度)より、『伝統文化講座を通じた国際交流』事業が実施されることになりました。この事業は、協定大学及び海外主要都市の文化機関に講師及び学生を派遣して日本伝統文化に関する学術交流・国際ワークショップを実施する「海外派遣事業(茶道)」と、協定留学生・外国人学生及び各国大使館の外交官・同家族を対象とした「英語による伝統文化講座(茶道)」で構成されるものです。

以下、その内容と成果を紹介します。



写真① 中澤講師による指導



写真② 本学派遣学生によるおもてなし

リーブス国際教育センターの協力により、尼ヶ崎彬教授による特別講義と、中澤宗寿講師の指導による茶道講座が実施されました。

同大学はハーバード大学に次いで米国で2番目に古い最難関の名門大学で、ジェファソン大統領、モンロー大統領、タイラー大統領、マッシュル最高裁長官や、独立宣言に調印した16名を含む建国に大きくかかわった人物の出身校としても知られています。教育内容は、研究よりも教養教育を重視したリベラル・アーツ・カレッジで日本語学科があります。また、同大学があるウィリアムズバーグはバージニア植民地の首都だった場所ので、1975年9月30日には昭和天皇がご訪問になり、1983年には先進7か国首脳会議(サミット)が開催されています。

尼ヶ崎彬教授による特別講義「Visible and Invisible ― Aesthetics in Japan ― (見えるものと見えないもの ― 日本の美意識 ―)」では、様々な画像を紹介しながら日本の美意識について特に茶道を中心に講義がなされ、約40人が受講。受講者の反響は非常に大きく、「わび・さびといった質素で静かなものの美が理解できた」「日本の美意識の本質を実感できた」「日本人の人生観、生命観に感動した」「無常観が印象深かった」等の声が寄せられました。

引き続き行われた、中澤 宗寿講師による茶道講座・茶会は、3人ずつ2組の学生に客人になってもらい、具体的な作法について指導する様子を約50名の受講者が見守る形で進行了ました。指導の過程で、所作の一つひとつに込められた、日本的様式美、哲学的意味、禅の思想などを中澤講師が説明され、受講生は、言葉だけでは伝えられない日本文化についての理解を深めました。参加者からは様々な質問が切れることなくなされ、最後に、参加者全員に茶が振る舞われ、盛況のうちに終了しました。(写真①②)

②在ワシントン日本国大使公邸 記念茶会

平成28年10月29日 13時～16時10分
駐米国大使公邸・茶室「悠々庵」
(ワシントンDC)

― 茶会 亭主：中澤 宗寿 本学講師

(表千家茶道講師)

半東：加藤 希美(日本文化学科4年)

浅野 莉奈

(国際コミュニケーション学科2年)

現地協力：在米日本国大使館広報

文化班

表千家米国東部支部

ワシントン地区

ワシントン桜友会

引率・渉外：畠山 圭一 本学副学長

尼ヶ崎 彬 本学教授

大出 隆 本学講師

(現地渉外支援)

日本の大学が海外で大学講義として茶道講座を主催するという前代未聞の試みを記念し、本学主催による茶会が、佐々江賢一郎駐米大使のご厚意により大使公邸の茶室「悠々庵」にて催されました。招待者は元国務副長官をはじめとする元政府高官・大学関係者、研究機関・文化交流機関の代表などの40名で、茶会の亭主を中澤 宗寿・本学講師が、半東を本学から派遣された2名の学生が務めました。当日の様子は、日本経済新聞電子版で紹介され、また、招待客の大学関係者からは本学の教育内容に高い関心が寄せられ、今後の大学間交流に向けた検討も要請されるほどの反響ぶりでした。(写真③④)

「英語による 伝統文化 講座(茶道)」



期間：平成28年9月28日～12月12日

(全10回)

― 指導：小堀 宗翔、後藤 宗典

参加学生：6名

本学には、数10名の外国人学生、20数名の協定留学生、約10名の外国人研究員・研修生・大学院生が在籍し、その多くが伝統文化演習に強い関心を持っています。そのため、外国人在籍者の伝統



写真③ 中澤講師によるお点前



写真④ 茶会前のレセプション



写真⑤ 家元から修了証をいただきました

文化に対するより深い理解を促すためには、英語による演習・講義の必要性がかねてから課題となっておりました。また、通常授業の国際文化交流論及び国際文化交流演習や各種の国際シンポジウム、国際ワークショップを通じて在日外交団との交流も恒常的に行われており、そうした世界各国の大使館員との交流をより深化させるために本学の特徴である日本の伝統文化に関する教育・研究を通して国際交流の在り方が模索されてきました。本年度は、第一弾として、9月より、協定留学生及び外国人研修生向けの英語による「伝統文化講座(茶道)」が実施されました。10回にわたって行われた講座では、茶道の歴史や理論を学ぶことから始まり、ほとんど茶道の経験がなかった学生も、講座終了までには自分で一通りお茶を点てることのできるようになりました。また、最終回にはその集大成として、遠州茶道宗家にて家元の指導のもと茶席を体験しました。華やかな着物に身を包んだ学生たちは、緊張した様子ながらも充実した時間を過ごすことができました。(写真⑤)

2016年度 特別授業の紹介

日本文化学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
地域食文化 国際比較 発酵「台湾茶」	沈 甫翰 (シン ホカン)	奇古堂(台湾茶、茶器などの 美術ギャラリー) 社長	5月25日	4限	比較生活文化論I (地域食文化論)	磯部 泰子
日本酒と出会う	遊佐 勇人	人気酒造株式会社 代表取締役	6月15日	5限	比較文化VI (嗜好)	中野 美季
日本の文化を世界に発進する新たな試み	桂 由美	株式会社カツラコミュニケー ション ナショナル 社長	12月19日	3限	伝統文化論VIII (染織)	福島 雅子

国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
ウェールズから見た日英文化の比較考察	島崎 晃	ウェールズ・カーディガン 町議会議員	5月6日	2限	イギリス文化論II	古庄 信
東欧からの音楽の伝播: ロマの音楽とクレズマーの音楽	岡本 佳子	東京大学大学院 総合文化研究科 学術研究員	5月11日	4限	東欧文化論	中島 崇文
現代の言語変化 ー現代日本語におけるアクセントの動向ー	塩田 雄大	NHK放送文化研究所研究員	7月13日	2限	社会言語学I	福島 直恭
リノベーションとレスタウロ	民岡 順朗	YKKAP株式会社 リノベーション事業部	7月12日	4限	文化遺産学	ウーゴ ミズコ
シリア難民問題の現状と課題	立山 良司	一般財団法人日本エネルギー 経済研究所 客員研究員 防衛大学校 名誉教授	10月26日	4限	国際コミュニケーション 演習III・IVH	武井 彩佳
ユダヤ人入植地とパレスチナ問題	今野 泰三	大阪市立大学大学院 都市文化研究センター 特別研究員	10月19日	2限	ヨーロッパ政治史II	武井 彩佳
韓国企業のグローバル戦略: グローバル展開の現状及び 日本市場進出の特徴	黄 八洙 (ファン パルス)	東京経済大学 非常勤講師	10月25日	5限	国際コミュニケーション 演習III・IVK	羅 京洙
イラクの女性たちとイスラム	アビール川上 (川上 かおり)	ハット研究所 所長	11月22日	4限	イスラム文化論II	小野 仁美
アルプスはいつから美しいか ーヨーロッパ美術にみる "山"の表象: 宗教改革以前以後ー	踊 共二	武蔵大学人文学部 教授	11月17日	1限	ヨーロッパ文化論	根占 献一
近現代アジアと歴史認識	後藤 乾一	早稲田大学 名誉教授	11月22日	5限	国際コミュニケーション 演習III・IVK	羅 京洙
なぜNPO法人か ーNPO法人新宿のゆったりー	小原 聖子	NPO法人ゆったりーの 代表	12月6日	2限	ボランティア論II	伊藤 由紀子
バルカン近現代史と歴史教育	クリスティナ・ クルリ	バンテイオン大学(ギリシャ) 教授	11月21日	4限	地域研究基礎論II	石田 信一
パレエで観るシェイクスピア	木村 恵子	神戸女子大学 教授 学習院女子大学 客員研究員	12月2日	4限	国際コミュニケーション 演習III・IVO	古庄 信
日本におけるアフリカに ルーツを持つ子どもたち	中川 マリー	NPO法人ランド・オブ・ドリーム 代表 モデル	12月16日	4限	アフリカ文化論	津山 直子

英語コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
人材会社から見る労働傾向	山下 健祐	アデコ株式会社 キーアカウント事業本部 本部長	6月14日	3限	英語コミュニケーション 演習IE・IIIE・ID・IIID	ウィン グン
英語を仕事にいかす方法 ～国際報道ディレクターの一例～	内田 敢	日本放送協会 報道番組センター 政経・国際番組部	7月12日	3限	英語コミュニケーション 演習ID・IIID	高橋 礼子

日本文化学科・国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
日本人と靴～靴の役割とその効用	浅利 妙峰	有限会社靴屋本店 代表取締役	5月13日	3限	国際コミュニケーション 演習U・日本文化演習N	品川 明
日本人と靴～靴の伝統と革新	浅利 妙峰	有限会社靴屋本店 代表取締役	11月11日	3限	国際コミュニケーション 演習U・日本文化演習N	品川 明

国際文化交流研究科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
日本の近代文学 ～自然科学との関連において～	千葉 俊二	早稲田大学 教授	6月28日	2限	比較文化演習IA	根占 献一
冷戦時代の国際関係からみる沖縄の歴史	堀川 輝之	沖縄県南城市役所文化課市 史編纂室 嘱託員 沖縄国際大学 非常勤講師	12月16日	3限	国際関係特殊研究 (国際法・国際機構)	櫻井 大三

共通科目

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
縄文料理	北沢 正和	しなの文化研究所 館主	5月18日	5限	生活環境論I (エコロジー)	品川 明
社会人にとっての民法とは ～民法実践講座～	小林 朝弘	株式会社アイビーコンサル ティング 代表取締役	11月11日	2限	法学II	櫻井 大三
スポーツと地球環境問題 ～スポーツは人と地球を健康にする～	大津 克哉	東海大学スポーツ・レジャー マネジメント学科 准教授	12月16日	3限	生活環境論II (ウエルネス論)	荒井 啓子

司書課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
国立国会図書館の電子図書館サービス	水野 翔彦	国立国会図書館 電子情報部システム基盤課 業務システム運用係 副主査	11月14日	1限	図書館基礎特論	江藤 正己

授業紹介

日本文化演習ⅡK・ⅣK

教授 阿部 誠



「食品研究」の副題のついている演習です。現在4年生9名、3年生12名(うち1名留学中)の計21名がメンバーです。

食品および食をめぐる特定の問題を題材に、調査力、解析力、論理的思考力、表現力を向上させ、研究遂行能力を養うことを目的としています。

演習の授業では、卒業論文・卒業研究の遂行に必要な食品研究に関する資料調査、技術の習得などを指導し、研究を進行し、考察し、まとめる能力を養成するとともに、文献紹介や経過報告を各自、メンバー全員の前で実施し、ディスカッションを行い、調査能力、発表能力や理解力を付けていきます。また授業時間外で個人別にミーティングを行い進行状況の確認を行うとともに、必要により個別の技術指導を行います。

単独研究、共同研究、いずれの形態でも卒業論文作成を行うことができますが、この演習のメンバーでは意外に1人で卒業

作成をしたいというケースが多いのが目立ちます。作業が大変なケースもあり、複数のメンバーでの研究も奨励するのですが、マイペースで進めたいタイプの方が多いようです。

卒業論文のテーマとしては、次のようなものを対象としています。

- (1) 伝統食品・伝承食品およびその製造に関する研究
- (2) 現代の加工食品とその利用に関する研究
- (3) 新しい食品製造・加工法開発に関する研究
- (4) 食糧問題に関する研究
- (5) その他、食にかかわる研究

研究の進め方としては、データの収集と解析が中心となり、データの収集法により、①文字資料、データベース等 ②理化学的実験 ③官能試験 ④アンケート収集 ⑤現地調査 ⑥市場調査や製品調査などの作業を行います。

阿部ゼミは、自分が好きなことにとことん向き合えるゼミです。

普段は、各々好きな食品や食のテーマについて調べ、ゼミ生の前で発表します。他の人の発表を聞くことで新たな気づきが得られたり、自らのテーマを深めることにも繋がります。

卒論に向けては、早い時期からテーマを絞り、長い時間をかけて取り組みます。何をどう研究すれば良いか、最初は難しく感じますが、つまづいた時は先生に相談すれば必ず解決し次のステップに踏み出せます。私は何十回も面談をし、メールでも相談に乗っていただきました。時には厳しいお言葉もいただきますが、普段はとってもお茶目で優しい先生です。阿部ゼミに所属できて、知見が広がりとても充実したゼミ生活を過ごせました。

(日本文化学科4年 滝澤 有紀)



阿部ゼミでは、それぞれの学生が興味を持った食品について調査研究を行い、その内容をゼミ生に向けて発表しています。

馴染みのある食品でも、栄養面だけでなく嗜好性や調理方法など様々な観点で発表されるので毎回新しい発見があります。自分が発表をするときは、どうしたらゼミ生が興味を持ってくれるか、わかりやすく伝えることができるかを意識します。

私は、卒業論文で「日本各地の餅に関する比較研究」を行いましたが、授業時間外でも質問を受け付け、1人ひとりに的確なアドバイスをくださる阿部教授には大変お世話になりました。このゼミを通して、自分が興味を持ったことに対して調べるだけでなく、まだ明らかにされていないことを自ら研究し伝える力を身につけることができました。

(日本文化学科4年 松戸 柚衣)





本学で開催された学会・研究会のお知らせ

団体名	責任者	会名称・内容	日時	参加人数
古事記学会	神田 典城	研究会・ 研究発表会	4月23日 9月17日 12月17日	各40名
伝承文学研究会	徳田 和夫	研究会	定例会9回	約20名
ルネサンス研究会	根占 献一	研究会	7月 2日	約50名
日本ユダヤ学会	武井 彩佳	研究会	5月28日 7月30日 10月29日 2017年 3月 5日	約20名
「近世巨大都市災害全体史の比較史的構築」研究会	岩淵 令治	研究会	8月10日	7名
「ヨーロッパ辺境地域における 文化の政治が表象する社会空間」研究会	中島 崇文	研究会	8月 9日	5名
祭祀研究会	乾 尚彦	研究会	6月 7日 10月16日 12月11日	16名
日本語／日本語教育研究会	佐藤 琢三	研究発表会	10月 2日	100名
関東日本語談話会	佐藤 琢三	研究発表会	定例会6回	30名
ビジネス支援図書館推進協議会 グローバルグループ	越塚 美加	報告会	10月23日	11名



平成28年度 客員研究員受入一覧

氏名	所属	研究テーマ	受入部署	共同研究者	受入開始	受入終了
大沼 保昭	明治大学特任教授 東京大学名誉教授	東西文化の融合と対立	国際コミュニケーション学科	石澤 靖治	4月1日	3月31日
木村 恵子	神戸大学教授	『道成寺縁起絵巻』絵解き説法 研究並びにその絵解き説法から 欧米人が受ける反応の研究	国際コミュニケーション学科	古庄 信	4月1日	3月31日
四方 八重戸	元国際連合大学勤務	持続可能な開発目標(SDGs)を 含む、ポスト2015年開発アジェンダ に関して:持続可能な社会創りへの インパクトとステークホルダー の動向を中心に	国際学研究所	畠山 圭一	11月1日	10月31日

専任教員著書の紹介

2016.1.1 ~ 2016.12.31

※原則として単行書を取り上げ、著作形態および紹介文は教員の報告に拠っています。



今橋 理子 教授

The Akita Ranga School and The Cultural Context in Edo Japan

著 Ruth S. McCreery 翻訳

出版社名/International House of Japan, Inc. ((公財)国際文化会館)

出版・発行年月/2016.3

内容/原著:『秋田蘭画の近代—小田野直武「不忍池図」を読む』(東京大学出版会、2009、第22回和辻哲郎文化賞受賞)の完全英訳。謎多き江戸時代洋風画の傑作である同作が、どのような文化的背景の中から誕生したかについて追究。第52回(2016年度)日本翻訳出版文化賞受賞作。



今橋 理子 教授

江戸の科学 大図鑑

共著

出版社名/河出書房新社

出版・発行年月/2016.5

内容/コラム「赤い鸚哥の意味するもの」を執筆。秋田藩主で秋田蘭画派の画家でもあった佐竹曙山が描いた「松に唐鳥図」(重要文化財)は博物学的興味に基づくだけでなく、実は巧みな言葉遊びも反映させた吉祥画であることを紹介した。



岩淵 令治 教授

近世大名のアーカイブズ資源研究

—松代藩・真田家をもめぐって

共著

出版社名/思文閣出版

出版・発行年月/2016.3

内容/近世大名は、組織的・人的な活動を通じて多様な文書類を膨大に発生させた。本書は、松代藩真田家の事例を中心に、藩庁の全体構造や各部局の機能などについて、記録管理の観点から分析したものである。



岩淵 令治 教授

醤油醸造業と地域の工業化

—高梨兵左衛門家の研究

共著

出版社名/慶應義塾大学出版会

出版・発行年月/2016.6

内容/本書は、日本最大の醤油産地である野田の最有力の醤油醸造家の一つであった高梨兵左衛門家を素材に、野田の成長過程と、高梨家の地域の経済や社会への貢献、関東市場との関わりを明らかにしたものである。



佐藤 琢三 教授

日本語文法研究のフロンティア

共編著

出版社名/くろしお出版

出版・発行年月/2016.5

内容/これからの文法研究が研究対象と方法の多様性を獲得することを目指し、16名の様々なバックグラウンドを有する先端の研究者が、それぞれの分野の開拓的研究を執筆した。



品川 明 教授

白熱教室 食生活を考える

共著

出版社名/アイ・ケイコーポレーション

出版・発行年月/2016.10

内容/味わい教育を実践するための方法論が記されている。味わうことの内容を提供するのではなく、自分自身の五感を使って、感じたことを概念化する。五感で感じるおいしさ、おいしさの要因、おいしさの表現などで構成されている。



根占 献一 教授

ヨーロッパ文化の再生と革新

共著

出版社名/知泉書館

出版・発行年月/2016.3

内容/古代への憧憬とローマ再生への意思がどのように展開されているかを、多数の図版を駆使して考察する。グローバル化、ネットワーク化により知的環境と人文学のパラダイムが転換するなか、専門分野を超えて新たなヨーロッパ理解の可能性を探る共同研究の試みである。



金野 純 准教授

講座 東アジア共同体論： 調和的秩序形成の課題

(学習院女子大学国際学研究所叢書)

編著

出版社名/御茶の水書房

出版・発行年月/2016.12

内容/東アジアに調和的秩序を形成するためにはどのような課題があるのだろうか。このような問いに歴史・社会・環境の側面からアプローチした研究書。



萱 忠義 准教授

合格への集中対策TEAP予想問題

監修

出版社名/テイエス企画

出版・発行年月/2016.3

内容/大学レベルで求められる英語運用能力を測定する4技能試験であるTEAPの問題集。近年、大学受験で幅広く採用されているTEAPについて、テスト概要、出題形式、解答手順、学習方法などを分かりやすく解説。

図書館から の お知らせ



学外フェアにおける ブック・セクター(学生選書委員)の活躍

「ブック・セクター」とは学生の視点で図書館に所蔵する本を選ぶ学生のことです。今年度は21名(1年生3名、2年生7名、3年生8名、4年生3名)で活動しています。ブック・セクターという名称は本学独自のものであり、多くの大学図書館では「学生選書委員」などと呼ばれています。本学図書館におけるブック・セクターの活動については『やわらぎ』第17号でも紹介していますが、その後ブック・セクターの活動は進展して、本年度はキャンパスの外へと展開し、学外においても活躍することができました。そこで今回は地域社会におけるブック・セクターの活躍について紹介したいと思います。

■POP作成講習会

ブック・セクターは図書館に置きたい本を書店の書棚から直接選ぶ「ブック・セレクト・ツアー(学生選書ツアー)」へ年2回参加します。ツアーで選書した本について、各自が毎回3冊分の「お薦めコメントを書いたPOPカード」を作成して、図書館内の「学生選書コーナー」において当該図書と共に展示し、本の魅力を来館者に伝えています。過去のPOPカードはいずれも素晴らしい完成度でしたが、本年度は更に充実した内容のPOP作成を目指して、ツアーを開催する紀伊国屋書店のご協力のもと「POP作成講習会」を開催しました。配色や文字の強調方法、必要情報の入れ方やレイアウトなど、POP作成のノウハウをプロから教えていただくことにより、店頭においても遜色のないPOPカードが完成しました。



POP作成講習会の様子

■学生が選んだおすすめ本フェア

ブック・セクターが作成したPOPカードはオープンキャンパスにおける図書館見学者にも評判が良いため、更に多くの方にご覧いただきたいと思っていたところ、紀伊国屋書店新宿本店より「学生が選んだおすすめ本フェア」開催のお話をいただきました。ブック・セクターが選んだ本とそのお薦めコメントを書いたPOPカードを広く一般の方にもご覧いただくという企画です。昨年秋に書店の8階に新設された専用コーナーの記念すべき第1回フェアを本学が担当しました(平成28年10月17日(月)～26日(水))。ブック・セクターの学生が見学を訪れたところ、「書店でPOPを見る側から見てもらえる側になったことは新鮮で貴重な経験ができて嬉しかった」、「POPカードを綺麗に飾っていただき感激した。頑張ってたかった。こ

れからも本の魅力を伝えることのできるPOPを作成したい」などの感想を聞くことができました。



フェアの様子

■書店における評判

「学生が選んだおすすめ本フェア」の評判を紀伊国屋書店の方に伺ったところ、POPがカラフルで目を引くため、立ち止まって本を手にとっているお客様が非常に多かったとのことでした。また店舗は新宿の中心に立地するため、出版関係の方々も見学されたようです。ある出版社の方はPOPの中に自社の刊行物を見つけて大変喜ばれ、学生にお礼のメッセージを寄せてくださいました。またあるPOPは本の魅力が伝わるよう、可愛らしいイラストを添えて作成されました。それをご覧になった翻訳者の方はご自分のTwitter上でPOPのことを写真つきで紹介してくださいました。今回のフェアは我々の予想を超えた多くの方にご覧いただけたようです。書店の方からは「POPは現役書店スタッフに勝るとも劣らないクオリティでした。本年度から始めた試みですが、開始早々非常に目を引く展示となり、この棚を設置して良かったと感じております」との評価をいただくことができました。

■これからのブック・セクターの活動

今年度は本学と同じ新宿区内に本店を置く書店においてフェアを行うことにより、ブック・セクターの活動が地域連携に結びつきました。今回貴重な経験をしたブック・セクター達からは「他にも地域連携を実現できないか考えてみたい」、「他の女子大学の選書委員と連携した活動を行いたい」、などの意見もありました。図書館としてもブック・セクターの活動を今後も積極的に支援していきたいと思えます。



フェアの見学を訪れたブック・セクター

留学生報告

協定留学生 (ワルシャワ大学)

Golonka Marta

ゴロンカ マルタ

どうしてポーランドからはるばる日本まで来ているのかよく聞かれますが、答えがそれほど簡単ではないと思います。確かに、日本に留学する理由は、色々あると思いますが、私は中学生の頃から、アニメや古い映画を通して、ますます日本に興味を持つようになって、将来の仕事で必ず日本と関わるということを目指して、大学で日本語と日本文化を勉強し始めました。今年初めて、そのずっと憧れていた日本に来て、もう八ヶ月が経ちました。留学生生活を旅行と大学のサークル活動を中心にして過ごしました。旅行と言えば、京都、奈良、鎌倉、金沢、大阪、神戸、広島と宮島などの様々な場所に行って、日本の魅力を改めて

発見することができました。今まで見た中で、最も感動した日本の風景は富士山です。初めて富士山に挨拶したのは芝桜まつりの頃でした。日本に来てから、ずっと忙しい東京をようやく出られて、春らしい日に景色の美しさを味わいながら、心を清めました。二回目に富士山を見に行った時は秋のみじの頃でした。雪化粧をした山も息をのむほど綺麗で、その記憶をいつまでも忘れないでしょう。留学中に経験したことの中で、一番印象に残っているのは学女で学べる日本伝統文化演習です。前学期は華道、今回は有職故実のお稽古に参加して、十二単を実際に着ることが出来るなんて、ここぞしか体験で

きないことです。また、伝統文化を通して、ほかの学生と交流しながら、仲良くなったり、自分の世界観も広げることができたりと思います。留学はまだ終わっていませんが、残り四ヶ月を切り、まだやりたいことも多いので、この一年間が人生で一番忙しくなるでしょう。新しいところを見たり、新しい体験をしたり、趣味を見つたり、友達ができたりして、少しでも成長したと思っています。留学生は皆同じだと思えますが、大変なことも時とてあります。自分は何んな経験でも、大切な経験だと強く信じています。残り少ない時間を楽しんで、頑張ります！



富士芝桜まつり



姫路城



友人たちとディズニーランドへ(上段右がゴロンカさん)

留学生報告

国際コミュニケーション学科
4年
周 明蕙



富士登山

四年前に学習院女子大学に入学し、卒業を迎えるまでは本当に一瞬の間だと思えました。大学に入った一年目の時に、日本語で授業を受けたり、課題をしたりするのは大変でした。さらに、アルバイトも忙しく、遊びの時間がなかなか取れませんでした。毎日もストレスを感じ、自分はどう病になったんじゃないかと思うくらい性格が暗くなっていました。幸いなことに、先輩と同期の留学生の皆さん、そして優しい日本人のクラスメートの皆さんがいて、私はようやく言語の壁を乗り越え、大学の生活に慣れてきました。

大学では日本語の授業はもちろん、必須科目の英語、履修を自由に選択できる様々な外国語授業もあります。私はイタリア語とフランス語を選びました。今はもう忘れてしまいましたが（笑）、授業中に先生が言語知識以外にその国の文化も教えてくれますし、自分の国とは違う文化のことが勉強できるので、視野を広げることができました。

私は旅行することと建築物を見ることが好きですので、乾尚彦先生のゼミに入りました。三年生の夏に、乾先生とゼミのクラスメートとフィールドワークに出かけ、福島へ行きました。一泊二日のフィールドワークは古い宿場町の「大内宿」と日本三田植祭のひとつの「伊佐須美神社御田植祭」を見に行きました。夜は現地の民宿に泊まり、食事もそこでいただきました。また、現地の方と色々なお話しができ、充実した楽しい旅でした。そして、三年生の秋学期は徐々に就職活動を始め、学業は比較的余裕があったので、友人と遊ぶ機会も増えました。ハロウィンの時に仮装して渋谷に行ったり、日本国内旅行をしたりして、忙しい一年でした。

大学の最後の一年に入り、卒業論文と就職活動をいよいよ本格的に進める時期になりました。大学には週一回しか行きませんので、大好きな学食のラーメンもあまり食べられなくて少し悲しいです。卒業論文と就職活動の両立をしながら、時間がより自由に使えるようになったので、遊びも欠かせません。ずっと登りたかった富士山に登り、無事に登頂ができて日の出を見ることができました。富士登山はかなり大変でしたが、この記憶は私の留学時代の最高の思い出になると思います。

これから大学を卒業して日本で就職できることはまるで夢みたいですが、就職活動中の挫折はもちろん、自分の能力はまだまだ足りないことも感じられて何度も諦めたいと思いましたが、しかし、せっかく海外留学ができたのに就職のチャンスを逃したらもったいないと思います。

最後に、この四年間はたくさんの人々にお世話になりました。ありがとうございます。



ハロウィンの時に仮装して渋谷へ
(中央が周さん)



大好きなラーメンと私

海外留学報告

国際コミュニケーション学科
4年
鈴木 百香



鈴木さんが1年間を過ごしたリーズ大学

私はイギリスのリーズ大学へ協定留学をしました。留学生は講義選択の際、学部に関係なく科目が選択でき、経済、文学、教育、環境、芸術など自分の興味ある分野を狭めず自由に時間割を組むことができました。私はゼミの専攻でもある国際開発論と絡め、アフリカ地域や子供の権利について学びました。各セメスターにおいては大体三科目受講ができます。一見少ないように見えますが、一つの科目につきレクチャーとディスカッション形式のセミナーが週に一度行われます。その予習復習で平日はほとんど図書館で勉強をしていました。

その中でも一番大変だったのがセミナーです。これはレクチャーと比べ少人数で行われ、学生一人ひとりの発言が求められます。初めの頃はセミナーでは教授や学生が何を言っているのか理解するのに必死で、ただ聞いているだけで終わることが多々ありました。セミナーが終わる度に自分の発言の少なさに落ち込む日々でした。しかし、そんな苦手だったセミナーも自分の英語力が伴うにつれ楽しいと思えるまでになりました。自分の発言に対して学生がそれぞれ意見を述べ、時間ぎりぎりまでもつれた時の白熱した議論は今でも忘れません。そして教授との距離が近く感じることもできたのもセミナーの醍醐味だと感じました。

リーズでの生活は勉強面で大変ではありませんでしたが、それも含め大変充実していました。一年の留学で私が心掛けたことは、「やりたいことは全部やる」です。これは内向きになりがちな留学生活を避けるためでもありませんが、この心がけてくださった皆さんの経験から学ぶことができました。ボランティア活動、日本語勉強会、フォトコンテストの参加、一人旅……。特にボランティア活動は講義に慣れてきた頃から積極的に参加し、最終的にはオックスフォームの本屋でボランティア勤務をさせていただきました。従業員は主婦、会社員、退職した元大学教授など様々で、普段は話すことのない地元の人々との交流はとても新鮮でした。

留学していた時間は私の中で特別で、かけがえないものです。そう思えるのもやりたいことを追求した自分の行動力のおかげだと思います。もちろん楽しいことばかりではありませんが、留学で自分自身と真剣に向き合うことができたと思います。このような貴重な経験をさせてくださったことにあたり関わってくださったすべての方に感謝の気持ちを伝えたいです。



本屋でのボランティア活動



鈴木さんの誕生日パーティー(中央が鈴木さん)

行事1

国際交流会～七夕の夕べ～

平成28年7月7日(木)、互敬会館にて「七夕の夕べ」と称して国際交流会を開催しました。これは、9月で帰国する協定留学生のお別れ会でもあります。

当日は、学習院女子大学に在籍する留学生、日本人学生、教職員に加えて、隣接する東京都立戸山高等学校からも13名の生徒さんが参加していただき、合わせて70名近くが参加しました。

七夕飾りや浴衣など、日本の夏の雰囲気味わってもらえるよう、ボランティアの学生たちが中心になって準備を進めてくれました。様々な国に関するクイズをチーム対抗で競ったり、全員で輪になって盆踊りを踊ったりして、交流を深めました。

会の終わりには、今学期で留学期間が終了し帰国する協定留学生たちが一人ずつ挨拶をし、記念品が贈られました。留学生たちの話す内容や表情から、充実した留学生活を送ることができたことが感じられました。今後、日本と世界との架け橋となってくれることを期待しています。



行事2

留学生日帰りバス旅行

霞会館芸術・伝統文化講座(留学生学外研修授業)として、平成28年10月18日(火)に山梨県でほうとう作り体験や古民家見学、そしてお寺での坐禅体験などを実施しました。本学に通う協定留学生、私費留学生、そして女子高等科に通う留学生も含めて、総勢30名が参加しました。

ほうとう作り体験では、地元の方々に教わりながら麺から手作りし、美味しいほうとうが出来上がりました。午後に訪れた古民家やお寺では、建物や庭園を熱心に見学する様子が見られました。また、お寺では住職さんから坐禅の持つ意味や座り方などを教えていただき、坐禅体験を行いました。

当日は気持ちの良い秋晴れで、富士山の頂上から裾野までくっきりと見ることができました。間近で見る美しい富士山の姿に留学生たちは大喜びで、何度も写真撮影をしていました。日本の自然や文化を体験し、更に日本への興味や理解を深めてもらう機会となりました。



行事3

留学生の話を聞こう!

国際交流推進センターでは、様々な国の留学生に母国の紹介をしてもらう「留学生の話を聞こう!」を定期的で開催しています。平成28年度は、ポーランド、ドイツ、ラオス、中国、韓国、台湾、チェコの学生に、母国の文化や自分が通う大学について発表をしてもらいました。留学生たちは、名所や食べ物、音楽や有名人など、様々な視点から母国を紹介してくれました。

留学生にとって、人前で発表することは、日本語の勉強になります。また、日本人学生にとっても、普段見聞きすることの少ない国の話を聞くことができる、またとないチャンスです。このイベントをきっかけに、協定校やその国々への興味を深めてもらい、協定留学に繋げてもらいたいです。



▶ 留学制度について

本学在学中に留学するには、以下の4つの方法があります。

- 1 協定留学: 学内選考を経て、協定大学に留学すること。
- 2 私費留学: 学士の学位授与権のある大学または当該大学に直結する附属機関に、事前に本学の許可を受けた上で留学すること。
(留学先は自分自身で選択。プログラムの内容によっては留学と認められない場合もあります。)
- 3 ダブルディグリー留学: 海外の大学に留学し、それぞれの大学で修得した単位の一部を両大学が相互に単位認定することで、両大学の学位を取得すること。(本学は、平成28年5月にカナダのレスブリッジ大学との間でダブルディグリー協定を締結しました。)
- 4 その他の留学: 本学を休学して、海外の語学学校・専門学校などへの留学。(夏休みなどの長期休暇を利用して留学する場合には休学する必要はありません。)

区分	留学期間	単位認定	学費	留学手続
協定留学	原則2学期(1年間) / 在籍年数に算入	認定可	本学学費全額納入・協定校学費免除	国際交流推進センターがサポートを行う
私費留学	原則2学期(1年間) / 在籍年数に算入	認定可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	本人が行う
ダブルディグリー留学	2年次秋学期から留学する場合は、原則として5学期(2年6ヶ月)、3年次秋学期から留学する場合は、原則として4学期(2年間)	認定可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	教務部と国際交流推進センターが共同でサポートを行う
その他の留学	休学期間は在籍年数に算入されない	認定不可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	本人が行う

▶ 協定留学について

1. 協定留学とは

本学では、現在15の国・地域の21校(うち1校は締結協議中)の大学と交換留学協定を締結しています。この21校の協定大学へ、学内の選考を経た上、本学より推薦を受けて派遣されることを協定留学といいます。

2. 学生交換・派遣プログラムのある協定大学一覧(平成29年1月現在)

国名	大学名/所在地	相互交換数 ※①		語学力の目安 ※②、③、④
		受入	派遣	
アメリカ	ミズウリ南部州立大学 ジョプリン/ミズウリ州	6	5	TOEFL iBT 60点程度 または IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)程度
	カリフォルニア大学デービス校 ※⑤ ※⑥ デービス/カリフォルニア州	-	-	TOEFL iBT:80点以上 または TOEFL PBT(ITP):550点以上 または IELTS 7.0点(Overall)以上 各6.5(L, R, W & S)以上
カナダ	ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学 プリンスジョージ/ ブリティッシュコロンビア州	1	4	TOEFL iBT 80点程度 または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)程度
	レスブリッジ大学 レスブリッジ/アルバータ州	2	7	TOEFL iBT 80点程度 または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)程度
オーストラリア	メルボルン大学 メルボルン/ヴィクトリア州	8	5	TOEFL iBT 79点以上(セクション毎のスコア: R13 L13 S18 W21以上) または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)以上
イギリス	リーズ大学 リーズ/ウェスト・ヨークシャー州	45	36	IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)以上
エストニア	タリン大学 タリン	20	16	TOEFL iBT 50点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上 各5.0(L, R, W & S)以上
ポーランド	ワルシャワ大学 ワルシャワ	32	35	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度

※① 相互交換数は協定締結日から平成28年12月現在の累積となります。

※② 語学力の目安は平成28年12月現在のものであり、協定校側から変更通知がある場合があります。

※③ L=Listening, R=Reading, W=Writing, S=Speaking

※④ 学部により異なる場合があります。

※⑤ 私費による派遣のみとなります。

※⑥ 平成28年度からの新規協定校。(1校は平成29年1月現在、締結協議中。年度内に締結予定)

国名	大学名/所在地	相互交換数 ※①		語学力の目安 ※②、③、④
		受入	派遣	
チェコ	バラツキー大学 オロモウツ	48	21	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
ルーマニア	ブカレスト大学 ブカレスト	26	10	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
ドイツ	ハンブルク大学 ハンブルク/ハンブルク州	42	11	ゲーテ・インスティテュート・ドイツ語技能検定A2レベル程度 またはドイツ語検定試験3級程度
	ミュンヘン大学 ミュンヘン/バイエルン州	22	21	ゲーテ・インスティテュート・ドイツ語技能検定B1レベル程度 またはドイツ語検定試験2級程度
フランス	西部カトリック大学 ※⑥ アンジェ ※協定締結予定	-	-	DALF B2以上 または フランス語検定準1級以上 または TEFレベル4以上 または TCFレベル4以上
中国	清華大学 北京	6	5	中国語検定(HSK)4級以上
台湾	国立高雄大学 高雄	-	-	中国語検定(HSK)3級程度
	静宜大学 台中	5	-	中国語検定(HSK)3級程度
	実践大学 ※⑥ 台北・高雄	-	-	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
韓国	誠信女子大学 ソウル	29	11	韓国語能力試験(TOPIK)中級程度 またはハングル能力検定試験4級程度
	梨花女子大学 ソウル	-	7	韓国語能力試験(TOPIK)中級程度 またはハングル能力検定試験3級程度
ラオス	ラオス国立大学 ビエンチャン	6	-	TOEFL iBT 57点以上 または同等レベルの英語能力
フィリピン	パーベチュアル・ヘルプ大学 ラスピニャス/マニラ近郊	-	-	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度

国籍別留学生受入数

平成28年12月1月現在

国籍	国籍別総数	合計	65
中国	22	私費	41
韓国	14	協定	19
台湾	3	国費	5
香港	4		
マレーシア	1		
ドイツ	3		
イギリス	2		
チェコ	1		
リトアニア	1		
ポーランド	3		
ベトナム	3		
インドネシア	1		
ラオス	1		
ルーマニア	3		
アメリカ	3		

JASSOの外国人留学生在籍状況調査に準じ、「留学」の在留資格を持つ者を対象としています。

本学学生派遣数

平成28年12月1月現在

国	人数
アメリカ	7
イギリス	4
カナダ	5
チェコ	2
ドイツ	3
ポーランド	2
エストニア	2
中国	3
韓国	3
合計	31
協定	23
私費	7

JASSOの日本人学生留学状況調査に準じ、平成28年4月1日以降に留学を開始した学生数をカウントしています。

注① 平成28年3月31日以前から継続している留学は含まれません。

注② 英コミの半セメスター留学および短期語学研修は含んでいません。

留学説明会について

留学に興味のある方は、
留学説明会に
出席してください。

春派遣は5月、秋派遣は10月に開催を予定しています。日時の詳細は、国際交流推進センター掲示板をご確認ください。

舞台芸術部

ごきげんよう。私たち舞台芸術部は週に2日、学習院女子大学やわらぎホールにて活動しております。年に4～5回ほど自主公演を学内と学外で行っており、毎公演200名ほどのお客様にお越しいただいております。本学生のみので劇団ですので、照明から音響、大道具、小道具、脚本、演出すべて女子だけで行っております。力仕事など大変な事もありますが、そこはチームワークでカバーしながら楽しく活動しております。

また、秋には学習院女子大学パフォーミングアーツフェスティバル(通称・pafe.GWC)という芸術祭を運営しており

ます。プロのアーティストをお呼びし、演劇に限らず、歌舞伎や映画、ダンスなどの多様な公演を企画し実行しております。その際、私たちの公演ではプロの演出家についていただき、一つの舞台を造って上演しております。

ほとんどの部員が大学で初めて演劇に触れて、魅了されていったものばかりです。マニュアルがない世界でもあるので、部員同士で試行錯誤しながら良いものを追求する日々を送っております。

少しでもご興味を持っていただけましたら、ぜひ我が部へお越しください。部員一同お待ちしております。

日本文化学科3年 中井 美帆



裏千家茶道部

ごきげんよう! 私たち裏千家茶道部は毎週火曜日と隔週水曜日の4限後から、食堂のある互敬会館3階和室にてお稽古をしています。お稽古では毎回季節を感じながら美味しいお菓子とお抹茶を楽しむことができます。

主なイベントとして年に2回のお茶会を行います。10月には大学祭での「もみじ茶会」、そして12月には成城大学と合同で世田谷区にある五島美術館の庭園と茶室を借りて行います。このお茶会は先生から特別なお道具を借り、4年生が集大成として行う大事なお茶会です。さらに2月には4年生の追い出しコンパをホテルニューオータニにて盛大に行います。

そしてこの部活でしか出来ない体験が、春休みに行われる宗家研修です。この研修では、お家元がいらっしゃる京都の今日庵にてお稽古をさせていただきます。本物に触れ、見るもの、聞くもの、感動の連続でした。少なくとも都内でこんなに素晴らしい体験が出来るのは学習院女子大学裏千家茶道部だけです!

初心者・経験者ともに大歓迎です。少しでも興味をお持ちの方はお気軽に見学・体験にお越しください。部員一同お待ちしております!

日本文化学科3年 菅原 菜美



バドミントン部

ごきげんよう。私たちバドミントン部は週3日、体育館で4時から9時まで活動をしています。活動は学内の体育館で行っているため、気軽に楽しくバドミントンを練習できるのも魅力です。初心者・経験者は約半数ずつですが、個々のレベルに合った大会が用意されているため、自分の実力にあった大会に出場することが可能です。

本学のバドミントン部は、OGとの交流が盛んであること、また学習院大学との合同練習を行う機会があることから、自分次第でより交流の輪を広げられることが特徴です。

学年の隔たりがないため、先輩方から学生生活に関する様々なアドバイスをもらうこともできます。

私は、この3年間の活動を通して得た「繋がり」、そして何より同期との仲が大学生活最大の収穫であると思っています。一緒に授業を受けているだけでは育たない「絆」をスポーツは作ってくれます。たった一度の大学生活、バドミントン部でかけがえのない仲間と出会ってみませんか？ 部員一同お待ちしております。

国際コミュニケーション学科3年 園部 結佳利



雅祭とは、毎年4月に行われる新入生歓迎会のことです。本学の委員会、公認団体クラブの紹介や、新入生同士の交流の場となるような企画を行い、新入生の皆さんが本学でのこれからの学生生活にわくわくできるような場所を提供しています。

新入生の皆さんにより一層楽しんでいただけるよう、先輩・後輩関係なく運営・企画・装飾・広報に携わることで、様々な意見を取り入れたより良い雅祭を創ることができたと自負しております。

アットホームな環境で、楽しみながら企画を考え、是非ともそれを実現させよう、雅祭を成功させようという奔走しました。



た。委員一人ひとりが楽しみ、頑張った成果が形となった雅祭本番を迎えられたときの感動は今でも忘れません。

参加していただいた新入生のみならず、楽しんでいただけでしたか？ 友達を継承し、より良い雅祭を創るために一緒に頑張ってくれる仲間になってくれると嬉しいです。

委員のみならず、雅祭実行委員会での経験が、今でも自分自身に生き続けていることと思います。この経験が、今後のみんなの人生に役立つことを願っています。一緒に頑張ってくれてありがとうございました。



「和祭」を振り返って

やわらぎさい

2016年度 大学祭実行委員長
(国際コミュニケーション学科3年)

新井 仁菜

今年度、学習院女子大学の大学祭「和祭」は10月8、9日の2日間行われました。不安定な気候にも関わらず、多くの方々に来場していただけたことを心より嬉しく思っております。

今年度の和祭は「Palette」の煌めきをのせて」というテーマを掲げました。絵を描くために必要なパレットの中には様々な色の絵の具が置かれます。その色一つひとつに意味があり、役割があります。また私達も同じように自分にしかない個性という色があり、自分の個性を活かすことのできる場がこの和祭であって欲しいという願いが込められています。またその個性という色がパレットという大学祭の中

で混ざり合い、協調し合い、新しいものを生み出して、私達にしか出来ない大学祭を作り上げることを目標として約300名の委員で活動してまいりました。委員長という立場に立たせて頂き、当日それぞれが準備してきたものが大きな力として発揮され、一人ひとりの個性が輝く場面を見届けることができました。

私は大学祭実行委員会に1年生の時に入会し、大切な仲間と出会ったことで楽しく活動を続け、様々な経験を積んできました。そして、今年度の和祭は私にとつて3年目の集大成として先輩から引き継いだ想いを大切にしながらも成長し続ける和祭

になるよう運営に努めてまいりました。今年度は特に委員同士の連携を大切にしていきたいと考え、毎週のお昼休みに行う定例会での情報共有の場を大切にしました。また各部署の委員が皆で当日2日間だけでなく準備日、片付け日の動きを細かく入念に確認したため大きな混乱もなく和祭を終えることができました。頼りない委員長であつたかもしれませんが、最後までともに和祭を作り上げ、ついてきてくれた各部署の長、委員達に大変感謝しております。また和祭を盛り上げるために参加していただきまし

た学習院女子大学の参加団体の皆様、他大学の参加団体の皆様にも改めて御礼申し上げます。

そして最後になりましたが、4月から大学祭のために多くの時間をかけてアドバイスをくださり、当日もご尽力くださいました学生部、毎回の打ち合わせにおいて貴重なご意見をくださいました教職員、また協賛企業や、OG、ご父母の皆様、今年度も無事に和祭を終えられたことは皆様のご支援とご指導の賜物と深く感謝しております。本当にありがとうございます。



写真下段：大学祭実行員とともに。中央が新井さん。

就職力

キャリア支援部のサポート体制

本学のキャリア教育・就職対策セミナーは、全学的に授業がない木曜日5時限目やお昼休みなど、学生の負担にならない時間帯に開催しており、参加しやすい環境を整えることで学業と就職活動の両立を図れるようにしています。多くのセミナーは1年生から参加できますので、積極的に参加して、早期から自身のキャリアプランについて考えてみましょう。

キャリア支援スケジュール(平成28年度実績)

開催月	セミナー内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> 4年生対象 集団模擬面接会 1年生・2年生向け「キャリアマップ検査」 公務員セミナー 4年生対象 学内企業説明会 前期就活スタートアップ講座
5月	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップガイダンス～夏編～ 適性・適職テスト 1年生・2年生向け「キャリアマップ結果ガイダンス」 4年生対象 学内企業説明会
6月	<ul style="list-style-type: none"> 夏季インターンシップ直前対策講座 筆記試験対策講座 写真撮影・メイクアドバイス講座(アナウンサー等マスコミ対策) 外務省職員による講演会「国際機関での働き方について」 適性・適職テスト結果ガイダンス～自己分析講座～ 4年生対象 学内企業説明会
7月	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ応援ブース
9月	<ul style="list-style-type: none"> アナウンサー試験対策講座 後期就活スタートアップ講座
10月	<ul style="list-style-type: none"> 公務員試験対策 相談会 外国人留学生の就職活動について 業界・企業研究の方法ーいい会社・悪い会社の見分け方 内定者報告会 新聞の読み方と業界選びの考え方 インターンシップガイダンス～秋・冬編～
11月	<ul style="list-style-type: none"> 内定者報告会 4年生対象 学内求人紹介会 メイク・就職写真アドバイス講座①身だしなみヘア・メイク編 メイク・就職写真アドバイス講座②概要編と面接に必要な姿勢&表情編 業界研究セミナー①旅行 ②航空 航空業界志望者対象ES等対策講座 筆記試験対策講座 面接時のマナー講座(個人面接・グループディスカッション・集団面接対策)
12月	<ul style="list-style-type: none"> エントリーシート・履歴書作成のポイント講座 写真撮影・メイクアドバイス講座(職種別対策) 業界研究セミナー①サービス(ホテル) ②金融(損害保険) 外資系航空会社セミナー 業界研究セミナー①商社(専門) ②情報通信 面接対策セミナー(2日間) 学内写真撮影会 業界研究セミナー①金融 ②航空
1月	<ul style="list-style-type: none"> OGとの交流会 学内写真撮影会
2月	<ul style="list-style-type: none"> 業界研究セミナー 優良企業の探し方講座 自己PR・志望動機作成講座 グループディスカッション対策講座 事務適性検査対策講座 就職模擬試験(SPI試験・GAB/CAB試験)

例年、金融業を中心に高い就職率を維持しています。また、国際系学部
の強みを生かし、グローバル企業や運輸業界への就職実績が高いこ
とも特徴です。小規模校のため、各企業への就職者数では、大規模
総合大学の陰に隠れてしましますが、実就職率ランキングでは、本学
が健闘していることがうかがえます。

速報!

学部系統別編(国際系)の実就職率で、
全国大学2位、全国私立大1位
となりました。

2016年 学部系統別編(国際系)

実就職率 全国私立大 1位

1位

実就職率(%)は、就職者数÷[卒業(修了)者数+大学院進学者数]×100で算出
*印は大学院修了者を含むことを指す

2016年 実就職率 学部系統別編(国際系)
(大学通信調べ)

1	新潟県立大・国際地域	94.6%
2	学習院女子大・国際文化交流	94.1%
3	金城学院大・国際情報	93.8%
4	国際教養大・国際教養	93.4%
5	名古屋外国語大・現代国際	92.8%
6	中京大・国際英語	92.5%
7	北九州市立大・国際環境工	92.5%
8	横浜市立大・国際総合科	92.5%
9	群馬県立女子大・国際コミュニケーション	92.5%
10	静岡県立大・国際関係	92.3%
11	中京大・国際教養	92.0%
11	中部大・国際関係	92.0%
13	神戸大・国際文化*	91.9%
14	東京外国語大・国際社会*	91.6%
15	広島市立大・国際	91.1%
16	常磐会学園大・国際こども教育	91.0%
17	同志社大・グローバル・コミュニケーション	91.0%
18	愛知大・国際コミュニケーション	90.6%
19	宇都宮大・国際*	90.3%
20	武蔵野大・グローバル・コミュニケーション	89.7%

2016年
キャビン
アテンダント(CA)
に強い大学

2016年
銀行に強い
大学

2016年
就職に
力を入れている
大学

全国 1位

全国 1位

全国 3位
女子大

<平成28年度 業界研究セミナー 主な参加企業>

あいおいニッセイ同和損害保険、ANAエアポートサービス、共同印刷、近鉄エクスプレス、警視庁、国際協力銀行、JALスカイ、JTBグループ、新日鐵住金、新日鐵住金エンジニアリング、住商エアロシステム、住友商事、住友商事グローバルメタルズ、セルリアンタワー東急ホテル、全日本空輸、ソフトバンク、損害保険ジャパン日本興亜、TAKAMI BRIDAL、日本航空、日本政策投資銀行、日本生命保険、野村證券、東日本旅客鉄道、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三越伊勢丹、三菱商事、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、りそな銀行 他(五十音順)



三井住友銀行

平成29年3月
日本文化学科 卒業

小蔵 友美

内定

就職活動で大切なことは、一つの業界に固執せずに、様々な業界に目を向けることだと私は考えます。私は、学校に来て下さる企業の説明会は勿論の事、合同説明会や業界研究セミナー等に積極的に参加しました。また、会社訪問や、インターンシップに参加することで、実際の職場の雰囲気や、実際の職場の雰囲気を体験しました。そこで得た情報を元に、自分に適した会社を探していく中で、内定先と出会いました。

私の内定先は、自分の仕事に誇りを持って生き生きと働いていらっしゃる行員の方々ばかりでした。そこで「互いに高め合う環境がある」という私が大切にしている価値観に

合っていると感じたため、この会社で働きたいと思うようになりました。

思い通りにいかず、悔しい思いをすることもありましたが、周りの方々の支えがあったおかげで、少しずつ乗り越えることができました。就職活動において、これが正解というものはないので、自分らしい方法で向き合っていれば、素敵な会社と巡り合うことができると思います。

就職活動中は、スケジュールが過密になり、不規則な生活になりがちなので、十分体調には気をつけて、頑張ってください！

大学で日本文化を専攻したことや、これまでの経験から将来は文化芸術に携わる仕事に就きたいと考えていました。具体的には文化振興の他に、後継者不足解消に繋がるとような仕組みをつくれないうかと思っていました。その時、行政の役割の大きさ、重要性に気づき公務員を目指すことにしました。

公務員試験は、筆記試験対策が大変なので早めの行動が大切だと思います。また、勉強を始めてから内定ができるまで長丁場ということもあり、精神的にも体力的にもモチベーションを保ち続けることが大切です。私の場合、初心を忘れ

ず日々淡々とやり続けることで、辛い時期を乗り越えることができましたと思います。面接の対策は、都庁の政策を資料をみて勉強したり、オリジナルの政策を考えるなど万全の準備をしましたが、公務員予備校や学校のキャリア支援部の方にも模擬面接をお願いし、いろいろな方からアドバイスをいただくようにしました。

都庁の仕事は希望する文化芸術分野だけではなく、他にも幅広い多くの仕事があります。何事も勉強から始まるとは思いますが、広い視野と柔軟な姿勢で職務に励みたいと考えています。



東京都庁

平成29年3月
日本文化学科 卒業

佐々木 優実

内定



東日本旅客鉄道

平成29年3月
国際コミュニケーション学科 卒業

廣田 美咲

内定

私は、「人々の日常を支え、使命感や責任感を持ち、社会に貢献していきたい」という目標を掲げ、生活の基盤であるインフラ関係に携わりたいという想いを持って就職活動をして参りました。会社説明会には、自分の足で一つ一つ会社を回り、実際に自分自身が大切にしている想いとズレがないか確認していくことを大切にしました。そのような中で、鉄道会社を選んだ理由として安心や安全、お客様の笑顔を守るべく、チームワークを大切に日々の業務にあたっているというお話からチアリーダー部で四年間を通して学んできたチームワーク力を最大に活かすことができると考

えたからです。お子様からご高齢の方まで様々な方が利用される駅という場で、皆様の安心安全を支え、笑顔と活力をお届け出来るよう日々努めて参ります。

キャリア支援部の方々にはES、試験、面接など何度も親身になって相談にのって頂き、就職活動を乗り越えることが出来ました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

就職活動は辛いことも、逃げたくなることもたくさんあるかもしれませんが、その全ての経験が財産になり、自分を強くしてくれるはずですよ。どんな時も笑顔を忘れず、頑張ってください。

就職活動中は、不安や緊張するのはみんな一緒！絶対大丈夫！という強い想いを持ち続け、常に前向きに心をこめました。大切なことは、もう後悔はないということまで努力すること、常に前向きにできていること、そして、自分を信じ抜くことだと思います。

どんな時でも私を信じ、心から応援し、支えてくれた家族。先の見えない不安の中、共に支えあった仲間。お世話になったキャリア支援部の皆様、先生。就職活動を通して、こんなにもたくさんの人が私を支えてくれているんだと、改めて気付くことができ、感謝の気持ちでいっぱい。幼い頃からの夢であった客室乗務員になること、そして日本航空の一員になり

たい！という想いを胸に駆け抜けた就職活動でした。

客室乗務員になること。日本航空の一員になること。この二つの夢を同時に叶えられたことに感無量です。そして何より、自分のことのように喜んでくれた、私を支えてくれた人達。心の底から感謝致します。

これからの目標は、優しさで笑顔にあふれ、誰からも愛される客室乗務員になることです。

これから就職活動を迎える皆様、支えてくれるたくさんの方々に感謝しながら、目標に向かって頑張ってください。皆様が笑顔で就職活動を終えられますよう、心から応援しています。



日本航空

平成29年3月
英語コミュニケーション学科 卒業

中本 千尋

内定

キャリア支援部 からのお知らせ

●平成28(2016)年3月卒の就職状況について

平成28年3月卒の就職状況は、企業の積極的な採用姿勢により、昨年の97.6%を上回る、98.9%という高い就職率になりました。採用スケジュール変更(3月広報解禁、8月選考解禁)の初年度となったこの年は、企業・学生ともに手探りの活動を余儀なくされました。広報解禁はほぼ守られたものの、選考は特に経団連非所属企業や中小企業で早期から盛んに行われたため、多くの学生は実質3月から8月まで休むことなく活動せざるを得ず、就職活動が長期化しました。企業の採用意欲は旺盛で、複数内定獲得者が増加し、企業への返答に戸惑う学生がキャリア支援部の窓口を訪れました。

内定状況としては、4月中に内定を獲得する学生が多かった前年に比べ、5月以降徐々に増えていき、10月時点の内定率は前年とほぼ同水準でし

た。就職先上位10社は、例年どおり金融業界と航空業界が多くを占めました。しかし、人材会社や通信会社への内定も増えており、企業の採用活動の積極性が学生の就職先の多様化につながっているとも読み取れます。

●平成29(2017)年3月卒の内定状況について

昨年変更されたばかりの採用スケジュールですが、経団連の「採用選考に関する指針」の2年連続の改定により、今年度は3月広報解禁、6月選考解禁となりました。広報解禁はそのままに選考解禁が2ヶ月前倒しとなったため、昨年と逆の「短期決戦」と言われる状況になりました。

6月早々に就職活動を終える学生がいる一方で、志望業界・企業に内定したにもかかわらず「これでよかったのか」という不安が生じ、活動を継続する学生もみられました。これは、広報期間の短縮により十分な企業研究ができなかったことが要因と考えられます。

しかしながら引き続き企業の採用意欲は高く、内定率は6月以降順調に伸び、11月末時点で8割を超える学生が進路を決めています。

●平成30(2018)年3月卒の就職活動について

次年度は採用スケジュールの変更はなく、3月広報解禁、6月選考解禁がすでに決定しているため、企業・学生ともに大きな戸惑いはなく解禁を迎えることができそうです。しかし、企業は今年度の経験を踏まえてスケジュールや選考方法を練り直す可能性もありますので、油断はできません。また、意識の高い学生は短期決戦になることを念頭に早期から活発に活動するため、3月のエントリー開始前にどれだけ準備できているのかが重要になってきます。

キャリア支援部では、学生に対し早期から準備をすることの重要性を説明するとともに、3月以降の活動をスムーズに始められるよう、2月にほぼ毎日就職セミナーを実施します。特に例年実施している業界研究セミナーでは、昨年より約20社多い60社を超える企業の方にお越しいただき、様々な角度から業界のお話をさせていただきます。本学の学生のために企業の方がお越しください、近い距離でお話を伺える大変貴重な機会です。学生の皆さんは積極的に参加してください。

平成27年度 (2015年度) 就職状況 (2015年9月・2016年3月卒業生)

平成28年3月31日現在

卒業決定者	384人
就職希望者	358人
就職希望率	93.2%
就職内定者	354人
就職内定率	98.9%

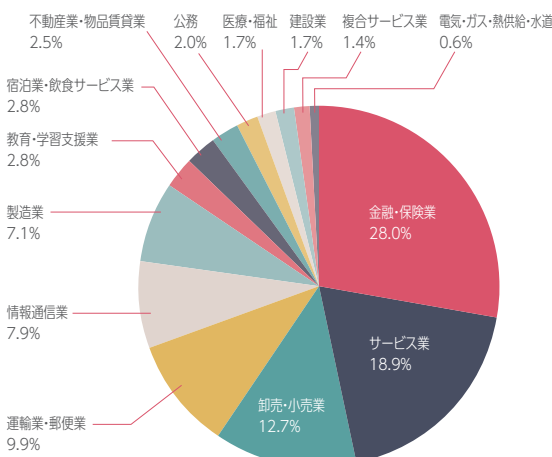
就職先上位10社

順位	企業名	人数
1	(株)みずほフィナンシャルグループ	13
2	(株)三井住友銀行	12
3	(株)三菱東京UFJ銀行	11
4	全日本空輸(株)	8
5	ANAエアポートサービス(株)	8
6	日本航空(株)	7
7	(株)千葉銀行	5
8	ソフトバンク(株)	4
9	(株)マイナビ	4
10	(株)リソナ銀行	4

平成27年度 主要産業別就職状況

産業	企業名(カッコ内は人数、1名は省略)
金融・保険業	みずほフィナンシャルグループ(13)、三井住友銀行(12)、三菱東京UFJ銀行(11)、千葉銀行(5)、リソナ銀行(4)、アフラック(3)、SMBC日興証券(3)、日本生命保険(3)、野村證券(3)、国際協力銀行(2)、資産管理サービス信託銀行(2)、城南信用金庫(2)、住友生命保険(2)、東京海上日動火災保険(2)、日本マスタートラスト信託銀行(2)、みずほビジネスサービス(2)、ゆうちょ銀行(2)、あいおいニッセイ同和損害保険、SMBCセンターサービス、クレディセゾン、群馬銀行、京葉銀行、埼玉信用金庫、Jトラスト、JAFサービス、常陸銀行、西京信用金庫、西武信用金庫、全東栄信用組合、損害保険ジャパン日本興亜、大和証券、中央労働金庫、トヨタファイナンス、日新火災海上保険、東日本銀行、日立キャピタル、三井住友信託銀行、三井住友海上あいおい生命保険、三井生命保険、三井ダイレクト損害保険、三菱UFJ国際投信、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、武蔵野銀行
サービス業	マイナビ(4)、エイチ・アイ・エス(3)、郵船コーディアルサービス(3)、アイスタイル(2)、キャブラン(2)、旅工房(2)、ニチイ学館(2)、アイエイエフコンサルティング、あとらすニチー、アライドアーキテクト、アンダーソン・毛利・友常法律事務所、伊藤忠フィナンシャルマネジメント、インテリジェンスビジネスソリューションズ、ANAスカイビルサービス、エスクリ、NOC日本アウトソーシング、エム・エイチ・グループ、エム・シー・ファシリティーズ、キャリアデザインセンター、近畿日本ツーリスト、クラブツーリズム、京王観光、サイバー・コミュニケーションズ、JMC、JTBグローバルマーケティング&トラベル、JTB首都圏、JTBビジネスネットワーク、JALナビア、新進商会、タナベ経営、千葉商工会議所、電通マネジメントサービス、テンブスタッフ、東武トップアーツ、トラベルロード、ナムコ、プリンセスグループ、ペリベスト法律事務所、ベンチャーバンク、三井不動産商業マネジメント、三菱電機ビルテクノサービス、みなとみらい特許事務所
卸売・小売業	エフ・ディ・シー・フレンズ(2)、資生堂ジャパン(2)、羽田エアポートエンタープライズ(2)、ミキハウス(2)、AOKI、ANAFESTA、飯田通商、イオンリテール、一蔵、イノテック、エノテカ、ガモウ、ゴディバジャパン、コナカ、島村楽器、スタイラ、住商スクール、住商ファーマインターナショナル、住友商事、DKSHジャパン、トール、東京エコー、東邦物産、ニトリホールディングス、野村鋼機、パーク・コーポレーション、飯和興業、P&Gマックスファクター、ビームス、米田三越、三鈴、三菱商事、三菱商事プラスチック、菱洋エレクトロ、ローソン
運輸業・郵便業	ANAエアポートサービス(8)、全日本空輸(8)、日本航空(7)、ANA成田エアポートサービス、カタール航空、近鉄エクスプレス、空港ターミナルサービス、JALスカイ、大王海運、東海旅客鉄道、日本通運、羽田空港サービス、パンダロジパル、マカオ航空
情報通信業	ソフトバンク(4)、アイル、秋田放送、インフォテックス、SCSK、大塚商会、鹿児島讀賣テレビ、カラー、ジョイントシステムズ・サービス、セールスフォース・ドットコム、ソフトバンクコマース&サービス、帝国データバンク、電通クリエイティブX、東北新社、東洋信号通信社、日本アイ・ピー・エム、日本アイ・ピー・エム・サービス、日本電算、日立公共システム、富士通システムズ・イースト、ベネフィット・ワン
製造業	関東電化工業(2)、味の素製薬、小野薬品工業、木村鋳造所、キリンパルティ、ケイ・ウノ、建研、サンサタバサジャパンリミテッド、芝浦電子、昭和産業、新日鐵住金、日新製鋼、たなや、ディスコ、東洋製罐グループホールディングス、日本食研ホールディングス、マードック、ヤマダイ食品、吉田、ライオン
教育・学習支援業	GABA、千葉県教育委員会、東京医科大学、東京福祉大学、プリティッシュカルチャーアカデミー、ベネッセコーポレーション
宿泊業・飲食サービス業	ウエストインホテル東京、セルリアンタワー東急ホテル、パークハイアット東京、星野リゾート、星野リゾート・マネジメント、ホテルオークラ東京ベイ、龍名館
不動産業・物品賃貸業	東急リバブル(3)、三井住友ファイナンス&リース(2)、アトレ、住商建物、東銀リース
公務	特別区(東京23区)人事委員会(3)、警視庁、越谷市役所、千葉市、土浦市役所
医療・福祉	医療法人社団誠馨会、医療法人聖心会、医療法人社団さくら会
建設業	旭化成リフォーム(2)、鴻池組、大和ハウス工業
複合サービス業	日本郵便(2)、さいたま農業協同組合、東京スマイル農業協同組合、東北自動車共済共同組合

平成27年度 学習院女子大学業種別就職状況-主な企業-



学習院父母会の近況報告

学習院女子大学 父母会会員の皆様へ

学習院父母会会長 小堀 正晴

ご父母の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。

学習院父母会は、学習院全体の経営・教育に参画し支援する組織であり、その目的に従ってさまざまな活動をしていきます。これは他の学校法人には見られない特徴です。本会は、園児、児童、生徒、学生が学習院において充実した学校生活を送れるように多岐にわたって支援することを第一の役割であると考えております。それは、学習院で学ぶ子ども達が社会人となり、明日の日本、世界の一翼を担う人材として成長することを願っているからです。本会は皆様から頂戴する年会費で運営されております。皆様とともに、ご子女のご成長、ご活躍をお祈り申し上げます。

● 学習院父母会事務局より

学習院女子大学のご父母(保証人)の皆様には常日頃より、本院の学校運営にご理解と多大なるご協力をいただきまして、平成28年度の学習院父母会の運営も滞ることなく進んでおります。

学習院父母会の事業運営報告等につきましては、y a w a r a g i 学習院女子大学だより「」に掲載いただけますことを感謝いたしております。

● 父母会の主要事業

(1) 父母会奨学金制度

(平成13年度創設)

学習院に在学する学生、生徒等で父母保証人の死亡などに起因し、家計が激変したことにより、学費の支弁が困難と認められる勉強熱心な者に対し、選考のうえ、年15名以内、年額授業料・維持費(高等科以下の名称)・施設設備費(大学及び女子大学の名称)相当額(100万円限度)を学習院在学中1年度に限り給付するものです。平成28年度は7名(大学6名、女子大学1名)の学生・生徒等へ給付いたしました。

(2) 父母会課外活動等助成金制度

(平成13年度創設)

現代は単に学問だけでなく、スポーツ・文化などを含めた広く大きな「人格形成」が教育の場に求められています。そこで父母会は、大学、女子大学、男女中・高等科及び初等科の運動部・文化部等の課外活動に対し積極的に助成しております。

・各部・各クラブの備品用具等へ助成する一般助成金について、平成28年度は各学校合計60件でした。

・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成27年度は各校合わせまして、優秀賞は団体9件、個人37件、奨励賞は団体1件、個人12件でした。

● 父母会の近況報告

(1) 地方における「地震災害による被災者父母保証人」へのお見舞い等

新潟県中越地震(平成16年)、福岡県西方沖地震(平成17年)、新潟県中越沖地震(平成19年)、岩手・宮城内陸地震(平成20年)、それぞれ、お見舞金を贈呈しました。

平成23年3月11日、東北関東地域に発生した甚大な災害に当たって「学習院東日本大震災義援金」へ100万円を募金しました。

また、東日本大震災罹災学生(大学及び女子大学に申請・認定の学生)に対して生活支援金(平成23年度の制限措置)を支給しました。

(2) 「オール学習院の集い」への協力

恒例の「オール学習院の集い」に対して、法人へ寄付をすると共に、常任幹事の方々には当日の運営にご協力いただき、「共催」の役目を務めております。

(3) 大型物件の寄贈及び寄付

・百周年記念会館小講堂の椅子の老朽化に伴い200脚寄贈(平成20年)

・学習院女子大学へグランドピアノ(スライムウェイC227)の寄贈(平成21年)

・幼稚園へAED及び保健室へAED訓練用入形の寄贈(平成21年)

・学習院女子中・高等科テニス・バレーコート人工芝化改修工事費の寄付(平成22年)

・校外施設(沼津游泳場・妙高高原)

地デジ対応テレビ等買い替えの寄付(平成22年)

・幼稚園へステンレス製オリジナル2連登り棒を寄贈(平成23年)

・各学校(大学・幼稚園)へ災害時整備計画に基づく備蓄品等を寄贈(平成24年)(女子大学用備蓄品として、アルファ米2100食及びバイバルパン2016缶を寄贈)

・学習院大学へ西5号館1階「学生ホール」内設置の椅子188席を寄贈(平成26年)

・学習院大学へ輔仁会館前噴水広場用屋外チェア16脚を寄贈(平成27年)

・初等科本館1階「図書室」内設置の机9台、椅子36脚、及び材料台4台を寄贈(平成29年)

・学習院女子中・高等科総合体育館の綴帳一式を寄贈(平成29年)

おわりに

以上のように学習院父母会は直接あるいは間接に学習院の経営、教育に参画、支援をしている組織です。皆様と共に、これからも学習院を支え、より良い学校にする努力を続けて参りたいと存じます。

父母会本部事務局は目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館2階にございます。ご用の節はご遠慮なく、ご連絡下さい。

開室時間 月～金 9時～17時
TEL & FAX: 03-3988-3226

「和祭参加 ホームカミングデー」

10月8日(土)、9日(日)、草上会(女子大学同窓会)では、和祭に参加して、ホームカミングデーとして「草上会サロン」、「草上会バザー」、「会員作品展」を開催致しました。

「草上会サロン」では、8日は、お招きした石澤靖治女子大学学長のご挨拶の後、風水心理カウンセラーの谷口令先生にご講演を、また9日は、着物スタイリストの大久保信子先生が実演を交えながら着付けのコツを教えてくださいました。社会でご活躍中の卒業生でもあるお2人のお話は、参加者から沢山の質問が飛び交うなど大変好評でした。

恒例の「草上会バザー」は、内藤政武学習院長がお立ち寄り下さいまして、今年も楽しみにして下さいませのお客様で大賑わい。熱気にあふれた2日間でした。

「会員作品展」では、卒業生が丹精込めて作られた作品の数々を、訪れた方が熱心に鑑賞して下さいました。

今年は両日とも朝方の雨が気になりましたが、草上会の

各会場は卒業生や在校生を始め、大勢の方々のご来場下さり、和やかなうちに終了することが出来ました。

例年5月から10月にかけて4回の和祭参加団体総会に参加し、和祭実行委員会の学生さん達のチームワークの良い活躍ぶりを卒業生として頼もしく感じております。

一連の和祭行事を通して温かいご協力をいただきました女子大学の皆様には心より御礼申し上げます。

(安堂 洋子)



「第58回総会・懇親会」 開催

6月12日(日)、ホテルオークラ東京オーチャードルームにて、128名が出席のもと第58回草上会総会・懇親会が開催されました。

第1部総会では、すべての議案が承認され、滞り無く終了いたしました。

第2部懇親会は、常陸宮妃華子殿下のご臨席を賜り、ご来賓の方々のご出席のもと、内藤政武学習院長、石澤靖治学習院女子大学学長よりご祝辞をいただき、東園基政桜友会長の乾杯のご発声と共に、和やかに会食が始まりました。

会食後のミニバザーでは常陸宮妃華子殿下のご翻訳本とお手作りのメッセージカードなどの品々を華子殿下がお手渡し下さいました。また、学習院オリジナル商品、東日本大震災支援の海産物も販売し、大変盛況でした。

続く講演会では薩摩琵琶正弦会会員、日本琵琶協会会員の石田 克佳氏(琵琶制作者・薩摩琵琶演奏家・平成2、大・文学部卒)をお迎えし、琵琶が樹齢100年を超える桑の木から作られること、平家琵琶や筑前琵琶との違い等、「薩摩琵琶の魅力」について興味深いお話を伺いました。また西郷隆盛を謳った「城山」(勝海舟作)、学習院にゆかりの深

い「金剛石」の演奏では、力強い琵琶の音と朗々と響く歌声に一同聞き入りました。

会場のオーチャードルームは外の光と、華やかなシャンデリアで、終始明るい雰囲気に包まれ、ご好評のうちに散会となりました。

総会・懇親会は卒業後30年を迎えた同窓生にお手伝いいただくことが恒例となっております。ご一緒に準備を進めていくにつれ、学年の別を越えて同窓生の絆が深まって行くと共に、また新しい出会いの場でもあると思われま

す。今回、司会・進行をお手伝い下さった35回生の皆様、ご協力下さったすべての皆様に感謝申し上げます。

(東倉 彰子)



草上会 平成28年度の主な活動

4月17日

学習院目白キャンパス

オール
学習院の
集い

花見茶屋・ヨーヨーつり

花見茶屋は温かいお茶とお饅頭でご来場の皆様をお迎えしお寛ぎの場として大変喜ばれております。ヨーヨーつりは毎年お子様方に大人気のコーナーです。平成29年度は4月16日(日)開催予定です。



お子様方に大人気のヨーヨーつり

6月12日

ホテルオークラ東京

総会・
懇親会

第58回草上会総会・懇親会が128名出席のもと、開催されました。総会後の懇親会には常陸宮妃華子殿下のご臨席を賜り、和やかに会食。ミニバザーは大変盛況でした。

講演「薩摩琵琶の魅力」

講師 石田 克佳氏

琵琶の種類・琵琶制作工程等を分かり易くお話いただき、勝 海舟作の「城山」の演奏は凛とした語りと勇壮な奏法には魅了されました。平成29年度は6月18日(日)ホテルオークラ東京にて開催予定です。



力強い琵琶の音に一同聞き入りました

10月8、9日

互敬会館3階

和祭参加

ホームカミングデー

- ・草上会サロンは同窓生をお茶とお菓子でおもてなし。二日にわたりミニ講演を開催しました。
- ・バザーは毎年同窓生からの寄贈品を学内外の方々にご購入をいただき大変好評を得ています。
- ・作品展は同窓生の丹精込めた作品が出品されます。力作揃いの作品に皆様感嘆の声をあげられました。詳細につきましてはP34をご覧ください。

10月20日

企画

栃木県

足利学校・栗田美術館を訪ねて

同窓生など42名の参加を得て、秋の日帰りバスツアーを楽しみました。見どころ満載で大変ご好評を得ました。



足利学校にてボランティアガイドさんからの説明に聞き入る皆様

毎月第2水曜日

互敬会館3階草上会洋室

ボランティア

新宿区社会福祉協議会に寄贈する「ふきん」縫い、使用済み切手の収集寄付、ホームカミングデーバザー用の小物作成等の作業を楽しみながら行っております。



月1回活動しています



お手製のバッグインバッグ

●詳しくは草上会ホームページをご覧ください
<http://gakushuin-ouyukai-branch.jp/soujoukai/>

学習院女子大学データ

平成28年度 入試の概要

国際文化交流学部	学科	入試の種類		
		入試の種類	志願者	合格者
日本文化学科	一般入試	志願者	482	
		合格者	179	
		入学者	102	
	その他 特別入試	志願者	78	
		合格者	66	
		入学者	64	
	合計	志願者	560	
		合格者	245	
		入学者	166	
国際コミュニケーション学科	一般入試	志願者	1,292	
		合格者	415	
		入学者	138	
	その他 特別入試	志願者	91	
		合格者	74	
		入学者	70	
	合計	志願者	1,383	
		合格者	489	
		入学者	208	
英語コミュニケーション学科	一般入試	志願者	261	
		合格者	131	
		入学者	52	
	その他 特別入試	志願者	20	
		合格者	12	
		入学者	6	
	合計	志願者	281	
		合格者	143	
		入学者	58	
学部合計	志願者	2,224		
	合格者	877		
	入学者	432		

(平成28年4月1日現在)

平成29年度 入試途中経過

入試区分	学科	募集人数	志願者	受験者	合格者	倍率	
一般入試 A	日本文化	60	362	354	165	2.1	
	国際コミュニケーション	70	852	831	314	2.6	
	英語コミュニケーション	30	218	213	96	2.2	
一般入試 B	日本文化	20	333	293	31	-	
	国際コミュニケーション	30	462	409	39	-	
	英語コミュニケーション	10	141	121	15	-	
特別入試	海外帰国生徒	日本文化	若干名	6	3	2	1.5
		国際コミュニケーション	若干名	15	12	10	1.2
	外国人留学生	日本文化	10	6	6	4	1.5
		国際コミュニケーション	10	10	10	7	1.4
	社会人	日本文化	若干名	0	0	0	-
		国際コミュニケーション	若干名	0	0	0	-
	推薦 A	日本文化	40	44	44	44	1.0
		国際コミュニケーション	50	45	45	45	1.0
		英語コミュニケーション	5	2	2	2	1.0
	推薦 B	日本文化	10	11	10	10	1.0
		国際コミュニケーション	10	28	28	19	1.5
	AO	英語コミュニケーション	若干名	10	9	8	1.1
女子高等科 推薦入学	日本文化	若干名	2	2	2	1.0	
	国際コミュニケーション	若干名	1	1	1	1.0	
	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	-	
総合計	日本文化	140	764	712	227	-	
	国際コミュニケーション	170	1,413	1,336	396	-	
	英語コミュニケーション	45	371	345	106	-	
	合計	355	2,548	2,393	729	-	

※注:一般入試A方式は補欠線上合格者を含み、B方式は正規合格者のみ
推薦指定日本語学校出身者を含む(平成29年3月1日現在)

学習院女子大学 学生数 一覧

学科	日本文化学科	国際コミュニケーション学科	英語コミュニケーション学科	合計	大学院修士課程
1年	166	208	58	432	7
2年	171	206	51	428	12
3年	165	228	46	439	-
4年	163	191	50	404	-
合計	665	833	205	1,703	19

(平成28年12月1日現在)



平成29年度 女子大学奨学金一覧表

※特記がない場合は学部・大学院共に対象。各奨学金の詳細は学生部窓口にお問合せください。

制度名		金額(円)	募集時期	貸・給別	備考	
安倍能成記念教育基金奨学金		450,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象	
学習院女子大学学業優秀者給付奨学金		学部学生 150,000 大学院生 300,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象	
学習院女子大学大学院研究奨励金		大学院生 35,000	4月上旬	給付	在学期間合計2回限り	
学習院女子大学学費支援給付奨学金		学部学生 第2期授業料相当額	4月中旬	給付	採用1ヶ年	
学習院女子大学奨学金		大学院・学部学生 学費納付金相当額以内	4月中旬	貸与	採用1ヶ年 2年生以上対象	
学習院女子大学教育ローン金利助成奨学金		在学中に利子給付(年50,000を上限)	掲示による 11月上旬~1月上旬	給付	採用1ヶ年 毎年申請	
学習院女子大学海外留学奨学金		500,000以内	掲示による	給付		
学習院女子大学海外留学奨学金 (交換によらない難関協定校への留学)		600,000以内	掲示による	給付		
学習院女子大学海外短期語学研修奨学金		100,000以内	掲示による	給付		
学習院女子大学海外ボランティア活動奨励金		100,000以内	掲示による	給付		
学習院女子大学協定留学生奨学金		500,000以内	募集しない・推薦制	給付	協定留学生対象	
学習院女子大学外国人留学生奨学金及び奨励金		奨学金 200,000	5月中旬	給付	毎年申請	
		奨励金 300,000	募集しない・推薦制		毎年推薦制	
学習院父母会奨学金		学部学生 授業料・施設設備費相当額 (100万円を上限)	掲示による 11月中旬~1月上旬	給付	採用1ヶ年 在学中1回限り	
日本学生支援機構	学部学生	第1種 (無利子)	自宅外通学 月額30,000または64,000 自宅通学 月額30,000または54,000	4月上旬	貸与	卒業月まで貸与
		第2種 (有利子)	希望により貸与月額3万、5万、8万、10万、12万の いずれかを選択			
	大学院生	第1種 (無利子)	月額50,000または88,000	4月上旬	貸与	修了月まで貸与
		第2種 (有利子)	希望により貸与月額5万、8万、10万、13万、15万の いずれかを選択			
日本学生支援機構 私費外国人留学生学習奨励費		月48,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 追加推薦あり	
その他公私機関による奨学金制度		その都度掲示を見てください。				

平成29年度 学年暦

4月	春期休業	1(土)~6(木)	10月	和祭準備(休講)	6(金)
	新入生ガイダンス	1(土)、3(月)~6(木)		和祭(休講)	7(土)、8(日)
	健康診断	1(土)、3(月)		和祭片付け(休講)	9(月)
	入学式	4(火)		開院記念日(休講)	17(火)
	春学期授業開始	7(金)		11月	
雅祭	9(日)	休日開講日	23(土)		
5月	臨時休講	1(月)、2(火)	12月		振替休講日
	開学記念日(開講)	15(月)		補講期間	20(水)、21(木)
6月				冬季休業	24(日)~1/10(水)
	休日開講日	17(月)	1月	授業開始	11(木)
7月	補講期間	21(金)、22(土)、24(月)		補講期間	20(土)、22(月)、23(火)
	春学期期末試験	25(火)~31(月)		秋学期末試験	24(水)~30(火)
8月	春学期授業終了(試験予備日)	1(火)	秋学期授業終了(試験予備日)	31(水)	
	夏季休業	2(水)~9/17(日)	2月	学年末休講	1(木)~3/24(土)
	集中講義期間	2(水)~4(金)、7(月)、8(火)		秋学期追試験	13(火)、14(水)
9月	春学期追試験	7(木)、8(金)	3月	卒業式	19(月)
	秋学期ガイダンス	14(木)~16(土)		春季休業	25(日)~31(土)
	秋学期授業開始	18(月)		在学生ガイダンス	22(木)、23(金)、26(月)、27(火)
	休日開講日	18(月)、23(土)			

01

ITCL「テンペスト」公演をふりかえって

(国際コミュニケーション学科 教授 古庄 信)

英国劇団ITCLによるシェイクスピア劇公演が2016年5月21日(土)、本学やわらぎホールにて行われました。この催しは本学の国際文化交流事業のひとつとして2007年より始まり、今年で10年の節目を迎えましたが、今回の演目は、終幕の主人公の「もはや私の魔法の力も消えました。」というセリフが暗示するように一般にはシェイクスピア最後の作品といわれる『テンペスト』(The Tempest)。この作品も他の有名なシェイクスピア作品同様、様々な映像作品がありますが、さすが2015年エリザベス女王から叙勲されたポール・ステビンガスの演出だけあって、今回のITCLの舞台はこれまで制作されたどの映画や舞台とも違いました。本学での10年間の公演中、ITCLのどの舞台でさえ失望させられるものはひとつもありませんでしたが、今回も新たな『テンペスト』でした。特に怪物キャラバンが“Be not afraid. The isle is full of noise, sound…”というセリフをととてもロマンチックに聴かせる場面は見どころでした。なぜ怪物がこんなセリフを? そういえば映画『エレファント・マン』でも醜い姿のメリックがロミオのセリフを語るシーンがあったり、とセリフの「美しさ」とその語り手の



「醜さ」のギャップという手法が英国文学のひとつの伝統(?) になっていることに気づかされます。怪物キャラバンが望んでいたのはプロスペロー殺害ではなく、支配からの解放、自由の喜びで、これを今回のキャラバン役、グリーン・コノップはみごとに演じていました。また原作では、プロスペローのエリエルに対する最後のセリフ“*My Ariel, ...to the elements Be free*”(エリエル、大気の中に自由に飛び去るがいい)をもってエリエルは消えるのですが、舞台上ではプロスペローの呪文が解けると同時に、エリエルはまるで寿命の尽きたロボットみたい崩れ落ち、動かなくなってしまいます。ステビンガスの手にかかる“free”はこう解釈されるのかと、とても切なく、涙を誘う演出でした。このように、また新しい“brave new world”「素晴らしい世界」により、この芝居における「支配と隷属」「自由と束縛」「憎悪と慈悲」とは何か? いろいろと考えさせられる舞台でもありました。そして終演後、スタッフの学生たちと役者らによるトークタイムや記念写真撮影など学内に居ながらにしての「国際交流」というもうひとつの舞台も展開されました。第11回の『十二夜』(Twelfth Night)本学公演は2017年5月20日(土)です。乞うご期待!

02

清水敏男教授が、フランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」を受勲

日本文化学科の清水敏男教授が、フランス共和国より芸術文化勲章「シュヴァリエ」を受勲しました。芸術文化勲章は1957年に創設され、フランス共和国文化通信省より与えられる勲章です。フランス文化の紹介者、普及の実務者、あるいは支援した人が勲章の対象になります。清水教授は、フランスのルーブル美術館大学で学び、本学では現代美術史、アートマネジメント

(博物館学)を専門としており、大学での講義の他、美術評論家、インディペンデントキュレーターとして美術批評、展覧会企画、パブリックアートプロジェクトに携わっています。



(写真)受勲式の様子

03

今橋理子教授の『秋田蘭画の近代』が英訳され、日本翻訳出版文化賞を受賞

日本文化学科の今橋理子教授著『秋田蘭画の近代—小田野直武「不忍池図」を読む』(2009年)が翻訳家Ruth S McCreery氏によって完全英訳され、公益財団法人国際文化会館より刊行されました(長銀ライブラリー叢書No.34)。「長銀ライブラリー叢書」は優れた日本研究を海外に発信する目的で編まれた叢書

で、出版された翻訳書は、全世界2800ヶ所以上の大学・研究所、公共図書館等に寄贈され、国内の主要大学・図書館にも納められています。今回受賞した日本翻訳出版文化賞は、過去1年で最も優れた翻訳書を刊行した出版社に対し贈られる賞です。

書籍の詳細はP20をご覧ください。

04

「第31回オール学習院の集い」開催のお知らせ

本院では、毎年4月に、学習院父母会、学習院校友会及び常磐会のご協力を得て「オール学習院の集い」を開催しています。

女子大学の学生団体も参加しますので、皆さんのお越しをお待ちしております。

なお、開会式及び大合同演奏会入場には、入場券が必要です。一般来場者席の入場券は、当日配付します。詳細は、平成29年3月中旬頃より学校法人学習院のホームページに掲載いたします。

- 日 時：平成29年4月16日(日)
午前9時30分～午後4時(雨天決行)
- 会 場：学習院目白キャンパス
(豊島区目白1-5-1)
- 備 考：詳細は、事務室の窓口で配付するパンフレット又はホームページ
(<http://www.gakushuin.ac.jp/ad/somu/all/>)をご覧ください。

05

JICA主催「グローバル教育コンクール2016」で「団体奨励賞」受賞 学習院女子大学の8年連続の入賞が実現

「グローバル教育コンクール」は2009～2010年度には外務省の主催、2011年度以降は独立行政法人国際協力機構(JICA)の主催で毎年、実施されています。学習院女子大学は初年度より毎年欠かさず応募し、2009～2011年度は「学校賞」、2012～2016年度は「団体奨励賞」を受賞しており、全国で唯一、8年

連続の入賞を果たすという成果を出しています。今年度も中欧国際協力研修やジュネーブ研修の成果を紹介する形で応募しています。詳細はJICA地球ひろばのホームページをご参照ください。



https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/global_edu/index.html



学習院女子大学

学習院女子大学 事務統括部

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1

TEL 03-3203-1906 Fax 03-3203-8373

URL <http://www.gwc.gakushuin.ac.jp>



Gakushuin Women's College